

首都圏中央連絡自動車道 埋蔵文化財調査報告書 9

— 成田市名木馬場遺跡・名木の場台遺跡 —

平成21年2月

国 土 交 通 省
財団法人 千葉県教育振興財団

首都圏中央連絡自動車道 埋蔵文化財調査報告書 9

— 成田市名木馬場遺跡・名木の場台遺跡 —



序 文

財団法人千葉県教育振興財団（文化財センター）は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県教育振興財団調査報告第612集として、国土交通省の首都圏中央連絡自動車道建設事業（千葉県下総地区ほか）に伴って実施した成田市名木馬場遺跡・名木の場台遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、縄文時代の遺物や、奈良・平安時代の遺物が出土しております。また、隣接する古墳に樹立されたと思われる埴輪片が出土しており、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また地域の歴史解明の資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々をはじめとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成21年2月

財団法人 千葉県教育振興財団
理事長 福 島 義 弘

凡 例

- 1 本書は、国土交通省による首都圏中央連絡自動車道建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 調査は「名木馬場遺跡・名木馬場古墳群、名木の場台遺跡」で実施したが、調査範囲が名木馬場古墳群の直接の遺構範囲に及ばなかったため、「名木馬場遺跡・名木の場台遺跡」として報告する。
- 3 本書に収録した遺跡は下記の通りである。
 - 1 名木馬場遺跡 341-011
香取郡下総町（現成田市）名木字熊山1184-1ほか
 - 2 名木の場台遺跡 341-112
香取郡下総町（現成田市）名木字川子山410-1ほか
- 4 発掘調査から報告書作成に至る業務は、国土交通省関東地方整備局の委託を受け、(財)千葉県教育振興財団が実施した。
- 5 発掘調査及び整理作業の経緯と組織・担当者は第1章に記載した。
- 6 本編の執筆は、主席研究員兼副所長相京邦彦が担当した。
- 7 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、下総町教育委員会（現成田市）、成田市教育委員会、国土交通省常総国道事務所の御指導・御協力を得た。
- 8 本編で使用した地形図は、下記のとおりである。
 - 第1図 国土地理院発行 1/50,000 地形図「佐原」(NI-54-19-9)
「成田」(NI-54-19-10)
 - 第2図 下総町役場 1/2,500 地形図「下総町全図」(平成10年3月作成)を編集
 - 第3図 国土地理院 1/25,000 地形図「新東京国際空港」(NI-54-19-10-1)
「佐原西部」(NI-54-19-9-2)
- 9 周辺地形航空写真は、京葉測量株式会社による昭和56年撮影のものを使用した。
- 10 本書で使用した図面の方位はすべて座標北である。測量値については日本測地系を使用した。
- 11 本書で使用した遺構番号は、調査時の番号を踏襲したが、一部整理作業時に付与したものもある。図面等におけるスクリーン・トーン及び記号等の用例は本文中に掲載した。須恵器は断面に墨入れをした。赤彩はスクリーン・トーン (No1208) で表示した。
- 12 遺物の色調については、農林水産省・(財)日本色彩研究所監修、日本色研事業株式会社発行「新版標準土色帖」1988年 掲載の用語を使用した。
- 13 本編で使用した遺構の略称は以下のとおりである。
SI：住居 SM：古墳・塚 SD：溝 SK：土坑

本文目次

第1章	はじめに	1
第1節	調査に至る経緯	1
第2節	遺跡の位置と周辺の環境	5
第3節	調査の方法	10
第4節	基本層序	10
第2章	名木馬場遺跡	12
第1節	概要	12
第2節	検出した遺構	17
第3節	出土遺物	22
1	土器 SM-003、C区、縄文土器、弥生土器～古式土師器	22
2	土製品	35
3	埴輪	36
4	石製品	37
5	銭貨	39
第3章	名木の場台遺跡	40
第1節	概要	40
第2節	検出した遺構	42
第3節	出土遺物	42
1	SI-001 2 SK-001 3 A・Bトレンチ出土遺物	
第4章	まとめ	46
	報告書抄録	巻末

挿図目次

第1図	圏央道(常総線)路線内の遺跡	2	第11図	D区 トレンチ配置図、地形測量図	18
第2図	調査地点位置図	3	第12図	E区 トレンチ配置図、地形測量図	19
第3図	周辺の遺跡	6	第13図	E区 SM-003測量図	20
第4図	小グリッド呼称説明図	10	第14図	SM-003、4D、4E遺物実測図	23
第5図	基本土層	11	第15図	4E-13、4E-21、4E-23遺物実測図	25
名木馬場遺跡			第16図	4E-23、4E(2)トレンチ、4E-32・33、 4E(3)トレンチ遺物実測図	28
第6図	グリッド及び調査区関係図	12	第17図	4E(3)トレンチ遺物実測図	30
第7図	A区 トレンチ配置図、地形測量図	13	第18図	縄文土器、弥生土器～土師器実測図	34
第8図	B区 トレンチ配置図、地形測量図	14	第19図	土製品実測図	36
第9図	C区 トレンチ配置図、地形測量図	15	第20図	埴輪実測図	37
第10図	C区 遺構分布図、土層説明、 地形測量図	16			

第21図 石器、砥石、石製品実測図……………38	第24図 A区 トレンチ配置図、地形測量図……41
第22図 銭貨拓影図……………39	第25図 B区 トレンチ配置図、地形測量図……43
名木の場台遺跡	第26図 SI-001、Aトレンチ遺物実測図 ……44
第23図 グリッド及び調査区関係図……………40	

表 目 次

第1表 圏央道(常総国)調査遺跡一覧……………4	第6表 土製品観察表……………35
第2表 周辺遺跡一覧……………7	第7表 埴輪観察表……………37
第3表 遺構一覧……………17	第8表 石製品観察表……………37
第4表 名木馬場遺跡土器観察表……………31	第9表 銭貨観察表……………39
第5表 土器(拓影図)観察表……………34	第10表 名木の場台遺跡土器観察表……………44

図 版 目 次

図版1 周辺航空写真 名木馬場遺跡	2 C区 SD-004内土坑全景
図版2 1 調査区遠景 A区 2 調査区遠景 B・C・D区	3 C区 SD-005全景
図版3 1 調査区近景 B区調査前 2 A区トレンチ 3 B区トレンチ	4 C区 SD-006全景
4 調査区近景 C区 調査前(1)	5 C区 SD-006土層断面図
図版4 1 調査区近景 C区 調査前(2) 2 C区トレンチ(4E(4)トレンチ) 3 C区トレンチ(4E(2)トレンチ) 4 C区トレンチ(4E(3)トレンチ) 5 C区トレンチ(4E-C2トレンチ)	6 C区 SD-007全景
図版5 1 調査区近景 D区調査前 2 E区(SM-002)調査前近景(1)	7 C区 SD-008全景
図版6 1 E区(SM-002)調査前近景(2) 2 E区 SM-003調査前近景	8 C区遺物出土状況
図版7 1 E区 SM-003表土除去後近景 2 E区 SM-003周溝土層断面(1) 3 E区 SM-003周溝土層断面(2) 4 E区 SM-003調査後全景	名木の場台遺跡
図版8 1 C区 SD-004全景	図版9 1 調査区近景 2 調査区遠景
	図版10 1 トレンチ 2 SK-001、SI-001 全景 3 トレンチ内遺物出土状況
	図版11 土器 SM-003、4D、4E
	図版12 土器 4E
	図版13 土器 4E
	図版14 土器 4E
	図版15 土器 4E
	図版16 土器 4E、SI-001、SK-001、トレンチ
	図版17 縄文土器・弥生土師器、土製品
	図版18 埴輪・石製品・石器、銭貨

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯（第1・2図、第1表、図版1）

首都圏中央連絡自動車道（圏央道）は、都心から半径およそ40km～60kmの位置に計画された延長約300kmに及ぶ環状の高規格幹線道路である。横浜、厚木、八王子、川越、つくば、成田、木更津などの都市を連絡し、東京湾アクアライン、東京外かく環状道路などと一体となって首都圏の広域的な幹線道路網を形成する首都圏3環状道路の、一番外側に位置する環状道路である。

茨城県稲敷市から利根川を渡り、神崎IC（仮称）で一般国道356号線と接続した後に下総台地に入り、大栄JCT（仮称）で東関東自動車道（水戸線）につながる約10.7kmの区画が平成4年度に事業化された。

大栄ICからは新東京国際空港の東側を通り、すでに開通している千葉東金道路（Ⅱ期）から、東金市、大網白里町、茂原市を経由して木更津へ至り、東京湾アクアラインへと続く、千葉県を南北に横断する高規格幹線道路である。

その用地内には数多くの遺跡が存在することから、その取扱いについて、千葉県教育委員会と国土交通省との間で慎重な協議を重ねられた。その結果、現状保存が困難な部分については、やむを得ず発掘調査による記録保存の措置を講ずることになり、神崎IC（仮称）・大栄JCT（仮称）間については、国土交通省（関東地方整備局常総国道事務所）から委託を受け、（財）千葉県教育振興財団が発掘調査を実施することになった。

発掘作業

平成17年度

名木馬場遺跡

期 間	平成17年11月7日～平成18年3月6日		
組 織	調査部長 矢戸三男 東部調査事務所長 鈴木定明 担当職員 主席研究員兼副所長 池田大助 上席研究員 糸川道行		
内 容	発掘作業 対象面積 7,700㎡ 確認調査 上層 1,090㎡/7,700㎡ 本 調 査 上層 350㎡・塚1基		

名木の場台遺跡

調査期間	平成17年11月1日～平成17年11月4日 平成18年3月1日～平成18年3月3日		
組 織	調査部長 矢戸三男 東部調査事務所長 鈴木定明 担当職員 主席研究員兼副所長 池田大助 上席研究員 糸川道行		



第1図 圏央道(常総国)路線内の遺跡 (1/25,000)



第2図 調査地点位置図 (1/5,000)

内 容 発掘作業 対象面積 1,590㎡
 確認調査 上層 122㎡/1,590㎡

整理作業

名木馬場遺跡、名木の場台遺跡

期 間 平成17年11月1日～平成18年3月31日

組 織 調査部長 矢戸三男

東部調査事務所長 鈴木定明

担当職員 主席研究員兼副所長 池田大助

内 容 水洗・注記の一部まで

第1表 圏央道（常総国）調査遺跡一覧

	遺跡略番号			調査年度	遺跡コード	遺跡名・遺跡地点名	調査地点・その他
	区	No	枝				
1	下	1		平成17年度	341-011	名木馬場遺跡	B・C・D・E区
2	下	2		平成17年度	341-011	名木馬場遺跡	A区
3	下	3		平成17年度	341-012	名木の場台遺跡	A区
4	下	4		平成17年度	341-012	名木の場台遺跡	B区
5	下	12		平成20年度	211-078	名木鎌部遺跡	名木庵寺と同一台地
6	下	13	1	平成18年度	211-068(1)	倉水内野北遺跡(1)	
7	下	13	2	平成18年度	211-068(2)	倉水内野北遺跡(2)	
8	下	14	1	平成18年度	211-070(1)	倉水内野南遺跡(1)	
9	下	14	2	平成18年度	211-070(2)	倉水内野南遺跡(2)	
10	下	14	3	平成19年度	211-070(3)	倉水内野南遺跡(3)	
11	下	15		平成18年度	211-073	青山小峰遺跡	
12	下	17	1	平成18年度	211-069(1)	成井原山遺跡(1)	
13	下	17	2	平成19年度	211-069(2)	成井原山遺跡(2)	
14	成	2		平成18年度	211-074	大壺石神遺跡	
15	成	3	1	平成19年度	211-075(1)	芝向芝遺跡(1)	
16	成	3	2	平成19年度	211-075(2)	芝向芝遺跡(2)	
17	成	4		平成19年度	211-076	芝西霜田遺跡	
18	成	5		平成18年度	211-071	芝東霜田遺跡	

名木馬場遺跡・名木の場台遺跡

調査期間 平成19年11月1日～平成20年3月31日
組織 調査研究部長 矢戸三男
北部調査事務所長 豊田佳伸
担当職員 主席研究員兼副所長 相京邦彦
内容 水洗・注記の一部～原稿執筆の一部まで

名木馬場遺跡・名木の場台遺跡

調査期間 平成20年7月1日～平成21年2月28日
組織 調査研究部長 大原正義
北部調査事務所長 豊田佳伸
担当職員 主席研究員兼副所長 相京邦彦
内容 名木馬場遺跡・名木の場台遺跡
原稿執筆の一部～報告書刊行まで

第2節 遺跡の位置と周辺の環境（第3図、第2表）

今回報告する遺跡の所在する旧下総町は、西を成田市と東は香取郡神崎町に接し、平成18年3月27日の市町村合併により、成田市と合併した。

本地区は、北側は東流する利根川により囲まれ、南側は下総丘陵と呼ばれる低丘陵地が広がる。また、本地域の特色として、利根川によって形成された沖積地に流入する小河川によって複雑に開析された小支谷が発達しており、これら小支谷に面する台地上には大規模な集落や古墳群が形成されている。

首都圏中央連絡自動車道〔圏央道（常総国）〕建設に伴い発掘調査を予定している遺跡は第1図のとおりである。平成19年度までに調査を実施した遺跡は、名木馬場遺跡（1）¹¹、名木の場台遺跡（2、8、9、10）^{12,13,14}、倉水内野北遺跡（4）¹⁵、倉水内野南遺跡（5）¹⁶、青山小峰遺跡（6）¹⁷、成井原山遺跡（7）¹⁸などの10遺跡18地点（第1表）である。

東流する利根川に流入する常向川により開析された台地および脊せ尾根上には、お互いを望むように集落あるいは古墳が所在している。名木馬場遺跡・名木馬場古墳群（1）・姫宮古墳群（11）¹⁹、名木の場台遺跡（2）が所在する台地もこのような立地を示している。台地奥部には縄文時代から奈良・平安時代にかけての大集落が所在しており、調査区はその台地の西側先端部に位置し、集落の西側縁部に相当している。

本地域での旧石器時代の遺跡は調査例が少ないが、新シ山遺跡・柳和台遺跡（12）²⁰、青山宮脇遺跡（13）²¹、名木天神台遺跡（14）²²、成田市椎ノ木遺跡²³、名古屋橋峯遺跡（15）等が知られている。椎ノ木遺跡のⅡ層や青山宮脇遺跡からは石器が出土し、また名古屋橋峯遺跡からは小形の尖頭器が出土している。名木天神台遺跡（14）からは旧石器時代のブロックが報告されている。

縄文時代草創期の遺跡としては有舌尖頭器と爪形土器が出土した成井原山向遺跡（16）²⁴が知られている。早期の井草期では神崎町西之城貝塚（17）²⁵から貝塚と堅穴住居跡が検出され、周辺には沈線文系土器を主に出土する遺跡が多数知られている。長船葉遺跡（18）²⁶では早期沈線文土器を含む包含層が、



第3図 周辺の遺跡 (1/25,000)

猿山・和田遺跡、菊水城遺跡、前原遺跡 (19)¹⁰⁹⁾、鎌部長峰遺跡 (20)¹¹⁰⁾ からは燃糸文土器から三戸式・田戸下層式土器が出土しピット群も検出されている。前期の遺跡としては神崎町植房貝塚 (21)¹¹¹⁾ が知られる。神崎町古原遺跡 (22)¹¹²⁾ では阿玉台期の土器が出土している。旧下総町では加曾利B式期の地点貝塚を伴う名古屋坊作遺跡 (38) (名古屋貝塚) が知られている。名古屋坊作遺跡の北側に接する名古屋十二代遺跡¹¹³⁾ では、中期阿玉台式から加曾利EⅣ式、後期加曾利B式土器を主とする斜面に立地する土器塚がある。後期・晩期の遺跡としては加曾利BⅢ式から安行期の遺跡として低段丘上にある大原野(龍正院)貝塚があり、晩期の標識遺跡である成田市荒海貝塚も所在している。

弥生時代の遺跡として、大和田坂ノ上遺跡¹¹⁴⁾、大和田大日台遺跡 (23)¹¹⁵⁾、新山遺跡等が知られている。中期前半須和田期の成田市石田遺跡や、新シ山遺跡・柳和田台遺跡 (12)、根木名川中流域の中期後半の成田市関戸遺跡が知られる。後期としては尾羽根川流域の成井鶴ヶ峰遺跡 (24)、中里原ノ台遺跡 (25)¹¹⁶⁾、成田市長山遺跡が知られ、長稲葉遺跡 (18) からは後期の竪穴住居跡が2軒検出されている。新シ山・柳和田遺跡 (12) からは弥生時代中期の土器棺墓が調査されている。

古墳時代の遺跡として、大和田玉造遺跡群 (26)¹¹⁷⁾ のような玉造遺跡が存在し、滑石製模造品の製作が見られる。名木馬場遺跡・名木の場台遺跡周辺においては5世紀代の石製模造品の製作工房跡が名木不光寺遺跡 (27)¹¹⁸⁾ や名木大台遺跡 (28)¹¹⁹⁾ などで検出されている。

名木不光寺遺跡 (27) では、古墳時代後期から平安時代に至る集落が調査され、名木天神台遺跡 (14) や青山富ノ木遺跡 (29)¹²⁰⁾ からは、掘立柱建物を含む奈良・平安時代の集落が調査されている。青山中峰遺跡 (30)¹²¹⁾ では平安時代の集落が、新シ山・柳和田台遺跡 (12) では掘立柱建物跡を主体とする集落が調査されている。

第2表 周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	名木馬場遺跡・名木馬場古墳群	14	名木天神台遺跡	27	名木不光寺遺跡
2	名木の場台遺跡	15	名古屋横峯遺跡	28	名木大台遺跡
3	名木鎌部遺跡	16	成井原山向遺跡	29	青山富ノ木遺跡
4	倉水内野北遺跡	17	西之城貝塚	30	青山中峰遺跡
5	倉水内野南遺跡	18	長稲葉遺跡	31	成井峯塚古墳群
6	青山小峰遺跡	19	前原遺跡	32	成井厩山1・2号墳
7	成井原山遺跡	20	鎌部長峰遺跡	33	地蔵原・仙土台塚古墳群
8	名木の場台遺跡3地点	21	植房貝塚	34	大日山古墳
9	名木の場台遺跡	22	古原遺跡	35	木挽崎古墳群
10	名木の場台遺跡2地点	23	大日台遺跡	36	小野女台遺跡
11	姫宮古墳群	24	成井鶴ヶ峰遺跡	37	名木麻寺
12	新シ山・柳和田台遺跡	25	中里原ノ台遺跡	38	名古屋坊作遺跡
13	青山宮脇遺跡	26	大和田玉造遺跡群		

また、この地域の特徴として石枕が多数出土していることがあげられる。栗山・猫作古墳群⁽⁹⁾からは1埋葬施設から3個の石枕が出土した。神崎町小松古墳⁽¹⁰⁾出土とされている石枕が東京国立博物館に6個収蔵されており、また西大須賀渡戸、高倉からも出土している。

成井原山遺跡の西側に成井華塚古墳群、成井居山1・2号墳が所在している。青山中峰遺跡(30)の台地には、東側に円墳4基からなる中峰古墳群がある。さらに、大須賀川との分水嶺から大須賀川の支谷に面する地域には地蔵原・仙土台塚古墳群(33)がある。

大日山古墳(34)⁽¹¹⁾は比較的古い段階のもので、全長54mの前方後円墳に木炭層の主体部が知られる。下総型の埴輪を出土する古墳もあり、木挽崎古墳群(35)⁽¹²⁾、大和田坂ノ上古墳群、栗山・猫作古墳群などが知られている。横穴墓群として西大須賀横穴墓群があり45基が集中する。

この時期の集落遺跡としては、名木大台遺跡(28)、名木不光寺遺跡(27)、寺ノ下1遺跡、名木天神台遺跡(14)、長稲葉遺跡(18)、小野女台遺跡(36)⁽¹³⁾が規模が大きい。名木大台遺跡(28)は、下総町教育委員会及び香取都市文化財センターによる調査がされており、古墳時代後期から奈良・平安時代の集落が調査されている。このように、本地域は古墳時代から奈良・平安時代にかけて千葉県北部地域においてきわめて重要な位置を占めていることが知られる。

歴史時代では、名木天神台遺跡(14)、青山富ノ木遺跡(29)、青山中峰遺跡(30)があり、古代寺院跡としては名木庵寺(3、37)⁽¹⁴⁾や山田寺系瓦を出土した龍正院瓦葺跡がある。また、造作出土の古瀬戸四耳壺、乗願寺所蔵の信楽三耳壺なども知られている。

日本後記によれば、805(延暦24)年まで、古東海道の駅家が荒海・馬敷に置かれている。前者は成田市荒海周辺、後者が旧大栄町馬敷周辺に比定されている。そのルートは確定されていないが、この2駅を直線的に經由して次の潮来駅に向かうとすれば、成井原山遺跡(7、16)、新シ・柳和出遺跡(12)の近くを通過することになり、その道路遺構の発見も期待できる。

中世では、この地域は千葉氏の庶流大須賀氏の勢力圏となり、戦国期には後北条氏の支配域に組み込まれた。主な城郭には、菊水城、名古屋地区の名古屋城、小帝城、助崎城、名木城⁽¹⁵⁾、松子城などが分布する。また大須賀氏菩提寺の古刹である大慈恩寺も現存している。北条氏滅亡後は、徳川幕藩体制の支配下に近世村藩を形成し、明治以降、市町村合併が幾たびか重ねられ、現在の行政区画に至っている。

参考文献

- 1 名木馬場遺跡 2006 「千葉県教育振興財団文化財センター年報No31-平成17年度-」(財)千葉県教育振興財団
- 2 名木の場台遺跡 2006 「千葉県教育振興財団文化財センター年報No31-平成17年度-」(財)千葉県教育振興財団
- 3 名木の場台遺跡第3地点 2006 「名木の場台遺跡3地点 下総町道中里名木線埋蔵文化財発掘調査報告書」(財)香取都市文化財センター
- 4 名木の場台遺跡 2006 「名木の場台遺跡 下総町道中里名木線埋蔵文化財発掘調査報告書」(財)香取都市文化財センター
- 5 名木の場台遺跡第2地点 2006 「名木の場台遺跡2地点 下総町道中里名木線埋蔵文化財発掘調査報告書」(財)香取都市文化財センター

- 6 名木鎌部遺跡 1983 「下総町名木庵寺跡確認調査報告」千葉県教育委員会
- 7 倉水内野北遺跡 2007 「千葉県教育振興財団文化財センター年報№32-平成18年度-」(財)千葉県教育振興財団
- 8 倉水内野南遺跡 2007 「千葉県教育振興財団文化財センター年報№32-平成18年度-」(財)千葉県教育振興財団 平成19年度発掘調査実施
- 9 青山小峰遺跡 2007 「千葉県教育振興財団文化財センター年報№32-平成18年度-」(財)千葉県教育振興財団
- 10 成井原山遺跡 2007 「千葉県教育振興財団文化財センター年報№32-平成18年度-」(財)千葉県教育振興財団 平成19年度発掘調査実施
- 11 綾宮古墳群 1993 「下総町史 原始・古代編」下総町史編纂委員会
- 12 新シ山・柳和田台遺跡 1995 「新シ山・柳和田台遺跡 主要地方道成田下総線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅴ」(財)千葉県文化財センター
- 13 青山官脇遺跡 1995 「青山官脇遺跡 主要地方道成田下総線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅴ」(財)千葉県文化財センター
- 14 名木天神台遺跡 1999 「下総町名木天神台遺跡 主要地方道成田下総線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅵ」(財)千葉県文化財センター
- 15 椎ノ木遺跡 1987 「椎の木遺跡 成田市産業廃棄物処理場予定地内埋蔵文化財調査報告書」(財)印旛郡市文化財センター
- 16 成井原山向遺跡 1987 「先土器時代」『房総考古学ライブラリー』Ⅰ (財)千葉県文化財センター
- 17 西村正衛 1984 「石器時代における利根川下流域の研究 貝塚を中心として」早稲田大学出版部
西之城貝塚 1992 「神崎町西の城貝塚」(財)千葉県文化財センター
- 18 長稲葉遺跡 1994 「下総町長稲葉遺跡 主要地方道成田下総線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」(財)千葉県文化財センター
- 19 前原遺跡 1957 「千葉県香取郡下総町前原遺跡」古代第23号 早稲田大学考古学研究会
- 20 鎌部長峰遺跡 1995 「名木長峰遺跡 下総町内遺跡群発掘調査報告」下総町教育委員会
- 21 植房貝塚 1984 「石器時代における利根川下流域の研究 貝塚を中心として」
- 22 古原遺跡 1984 「千葉県香取郡神崎町古原貝塚 石器時代における利根川流域の研究」早稲田大学出版部
- 23 名古屋十二代遺跡 1988 「名古屋貝塚 千葉県香取郡下総町名古屋貝塚の調査」下総町史編さん委員会
- 24 大和田坂ノ上遺跡 1988 「大和田坂ノ上遺跡」大和田坂ノ上遺跡調査会
- 25 大和田大日台遺跡 1992 「千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報」千葉県教育庁文化課
- 26 中里原ノ台遺跡 1989 「中里原ノ台遺跡 千葉県香取郡下総町文化財調査報告Ⅵ」下総町教育委員会
- 27 大和田玉造遺跡群 1970 「大和田玉造遺跡発掘調査概報」千葉県教育委員会
- 28 名木不光寺 1993 「下総町不光寺遺跡 一般県道成田下総線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」 第230集
(財)千葉県文化財センター
名木不光寺 2006 「名木不光遺跡 下総町道中里名木線埋蔵文化財発掘調査報告書」(財)香取郡市文化財センター
- 29 名木大台遺跡 1998 「下総町名木大台遺跡 主要地方道成田下総線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅵ」

(財)千葉県文化財センター

名木大台遺跡 1979 「千葉県下総町名木大台遺跡 名木小学校移転新築に伴う埋蔵文化財調査」下総町教育委員会

名木大台遺跡 1989 「下総町名木大台遺跡第2次調査」下総町教育委員会

30 青山高ノ木遺跡 1999 「下総町青山高ノ木遺跡・鎌部長峰遺跡 主要地方道成田下総線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書」(財)千葉県文化財センター

31 青山中峰遺跡 1995 「青山中峰遺跡 主要地方道成田下総線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅴ」(財)千葉県文化財センター

32 栗山・猪作古墳群 1995 「猪作・栗山16号墳」(財)香取郡市文化財センター

小松古墳、向田4号古墳 1998 「千葉県埋蔵文化財分布地図(2)」(財)千葉県文化財センター

33 大日山古墳 1971 「大日山古墳」千葉県教育委員会

34 木挽崎古墳群 1998 「千葉県埋蔵文化財分布地図(2) 前方後円墳1、円墳4、土師器」(財)千葉県文化財センター

35 小野女台遺跡 1990 「小野女台遺跡」(財)香取郡市文化財センター

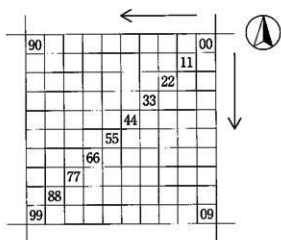
36 名木庵寺 1983 「下総町名木庵寺跡確認調査報告」(財)千葉県文化財センター 千葉県教育委員会

37 名木城 南城砦跡 1998 「千葉県埋蔵文化財分布地図(2)」(財)千葉県文化財センター

第3節 調査の方法(第4・6図)

圏央道(常総国)の調査は路線であり、圏央道(常総国)の工区だけでもその対象域は10.7kmにわたる。そのため調査対象の全遺跡をカバーする同一基準によるグリッド設定は難しく、調査対象遺跡の集中する地区についてだけ複数の遺跡に同一基準のグリッドを設定した。

グリッドはまず大グリッドを設定し、さらに大グリッド内に小グリッドを設定する方法を取った。大グリッドは一辺40m×40mで、その中に一辺4m×4mの小グリッドを100個設定した。大グリッドの呼称については、北側から南側に向かってA~H、東側から西側に向かって1~7とし、東北隅の大グリッドを1Aとした。小グリッドの呼称は北東隅を00、南西隅を99として、100個の小グリッドとした。

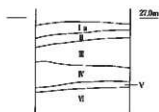


第4図 小グリッド呼称説明図

第4節 基本層序(第5図)

名木馬場遺跡SM-003の盛土下の土層を標準土層とした。今回報告する圏央道(常総国)に関する旧下総町域の調査区は斜面部が多く、そのためかローム層等の堆積が不安定であった。そのため下層の確認調査を実施できた場所はなかった。基本土層としたSM-003の盛土下の堆積土は盛土があったために比較的残存状態は良好であった。しかし、その場所すら、表土層から地山である暗褐色土層まで明確に分層でき

なかった。今回の調査区はローム層の堆積が明確でなく、表土層から直ちに地山が検出され、多量の鉄分を含む砂質土層に移行していた。



基本土層 (SM-003盛土部分)

- | | | | |
|-------|--------|-----|---|
| I a 層 | 暗褐色土層 | 表土層 | 淡黄色砂質土+腐葉土 |
| I b 層 | 暗褐色土層 | 表土層 | 淡黄色砂質土を主として、暗褐色土を含む |
| II 層 | 暗褐色土層 | | 淡黄色砂質土を主として、やや少量の暗褐色土を含む
I b層に似ているがやや暗褐色土が少ない |
| III 層 | 褐色土層 | | 淡黄色砂質土を主体として、黒色土の含有は少ない。
II層より褐色度が強い、やや少量の鉄分(褐色粒)を含む |
| IV 層 | 黄色褐色土層 | | 淡黄色砂質土が主体で、やや多量の鉄分(褐色粒)を含む
鉄分を除けばⅢ層より淡い色調 |
| V 層 | 暗淡褐色土層 | | 淡褐色土が主体で、やや暗い色調で粘性が強い
鉄分を含まない |
| VI 層 | 暗褐色土層 | | 淡褐色砂質土に加えて、やや多量の暗褐色土を含む |

第5図 基本土層

第2章 名木馬場遺跡

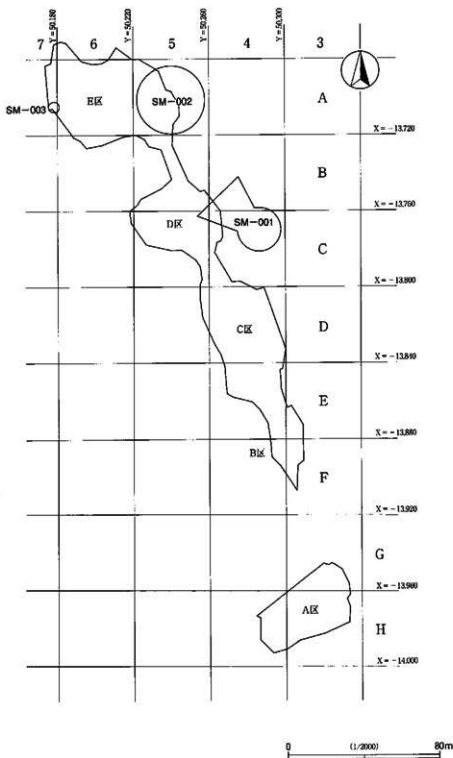
第1節 概要 (第6図・図版2)

名木馬場遺跡は、旧下総町、現在の千葉県成田市名木字熊山1184-1ほかに所在している。調査は、平成17年11月7日から平成18年3月6日まで行われた。対象面積は7,700㎡、上層の確認調査面積は1,090㎡であった。確認調査の結果から遺物が集中して出土した350㎡と塚1基が調査対象とされた。下層の調査はローム層の堆積が明確でないことから、確認調査は行わなかった。

調査区を含む台地上には、縄文時代から奈良・平安時代にかけての大集落である名木馬場遺跡が展開している。今回の調査区はその台地の西側に位置している。また本地域には名木馬場古墳群・綾宮古墳群と呼ばれる古墳群が展開し、前方後円墳や円墳が所在している。

調査区は台地の西側端部で、西側低地にある沖積低地を望む小細尾根上に所在している。

現地踏査や地形図によって前方後円墳の前方部の一部、および円墳と思われる高まりのほぼ半分が調査の対象となった。調査区内の伐採によって、さらに新規に1か所の高まりが確認された。このためそれぞれ南側からSM-001(前方後円墳)、SM-002(円墳)、SM-003(新規発見)と仮称し、



第6図 グリッド及び調査区関係図

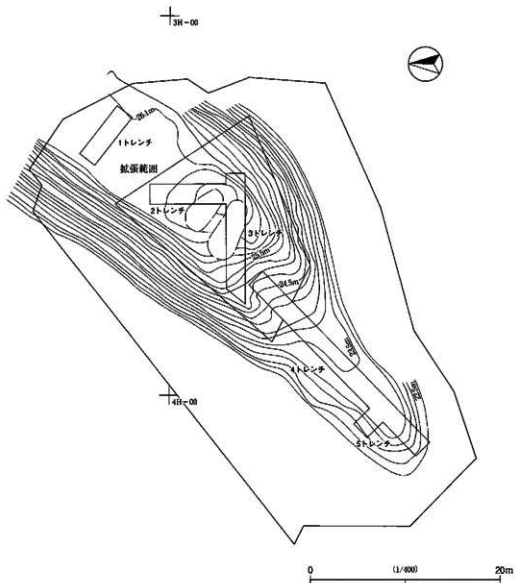
調査を実施した。

調査の結果、SM-001については、調査区内には盛土・周溝等が確認されず、古墳の遺構が調査区までは及んでいないという結果となった。SM-002については、自然地形の高まりと判断し、SM-003は近世の塚という結果となった。

調査範囲である路線は、細尾根の先端部を縦断するように計画されており、それぞれ南から北へA区、B区、C区、D区、E区と命名し、A区からE区までで調査区の全域を含む大グリッドを設定した。小グリッドは先に説明した方法で設定した。

A区（第7図、図版3）

3Hを中心とした大グリッドに位置し、名木馬場遺跡の中では最も南に位置し、西側の低地に向かって伸びる細尾根上に立地している。中央部には掘乱坑がいくつか見られた。伐採によって、古墳と思われる高まりが数か所確認されたため、確認トレンチを入れて調査を実施したが、古墳の痕跡は確認できなかった。



第7図 A区 トレンチ配置図、地形測量図

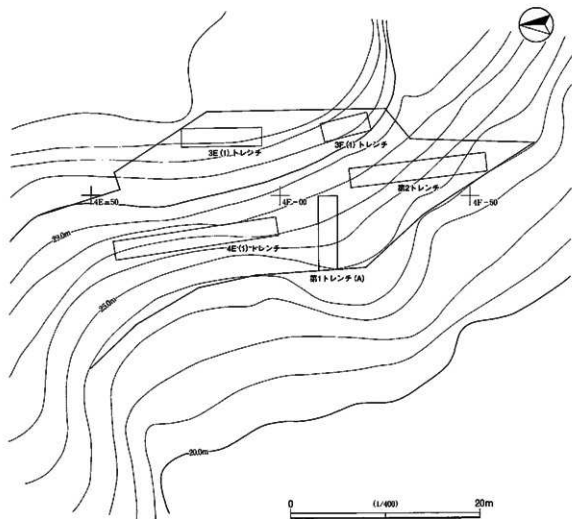
た。その他の場所に関して、稜線及びグリッドに沿って確認トレンチを設置し、遺構・遺物の検出を行った。確認トレンチ内から遺物が集中して出土したため、周辺を拡張して調査を実施し、遺構及び遺物の出土状況の性格を確認したが、特に遺構等は検出されなかった。出土遺物は弥生時代から古墳時代前期のものと思われる小破片のみであった。

B区（第8図、図版3）

4E・4Fを中心とした大グリッドに位置している。確認トレンチ5か所を設定したが、遺構・遺物は検出されなかった。そのため、B区の調査は確認調査で終了した。

C区（第9・10図、図版3・4・8）

4Dを中心とした大グリッドに位置している。伐木後の地形の観察では土壘状の盛り土（SA-001・SA-002）や、くぼみ状になった溝状の遺構が確認できた。そのため地形測量をおこなってから、確認トレンチを設定して調査を実施した。土壘及び溝状遺構は近世以降に溝を掘ったときの排土による盛り土と判断された。確認トレンチからは縄文土器、古墳時代前期から古墳時代中期の土器の破片が少量出土した。確認トレンチを19か所設定したが、数が多いことと木根が多いことから重機を使用し、精査は人力でおこ

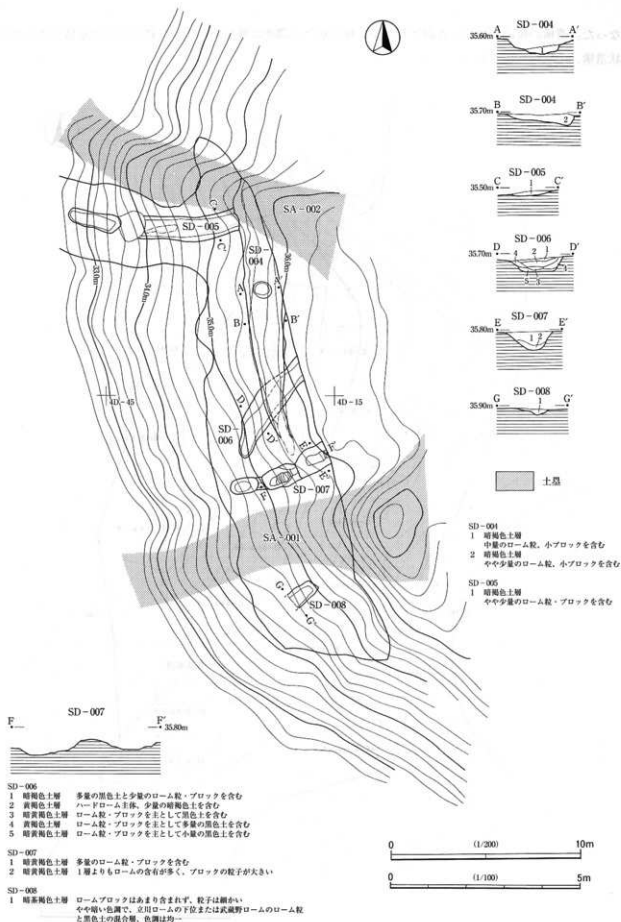


第8図 B区 トレンチ配置図、地形測量図

なった。遺構の確認面はローム面としたが、地山層との識別は難しかった。最終的に溝状遺構5条と土塁状遺構、土坑が検出された。



第9図 C区 トレンチ配置図、地形測量図



第10図 C区 遺構分布図、土層説明、地形測量図

確認トレンチ内からは古墳時代前期の土器片及び埴輪片が出土し、近くに埴輪を持つ古墳の所在が推定される。

D区（第11図、図版5）

5Cを中心とした大グリッドに位置している。表土を除去するとすぐに淡黄色の砂質層があり、ローム層の堆積は見られなかった。この淡褐色砂質層は地山の一部と思われる。表土層の下位部分には褐色の鉄分が混じる土が堆積していた。10か所のトレンチを入れて遺構・遺物の検出作業を実施した。

東側台地上には前方後円墳が所在しており、地形図から古墳の前方部の一部が調査区に掛かるため、この範囲の遺構検出が目的であった（SM-001）。そのため、地形測量を実施した後地形に合わせて確認トレンチを設定し、古墳の墳丘盛土の確認、古墳の周溝の検出、古墳の削り出痕などの検出作業を行った。トレンチ内の堆積土は自然の堆積土であり、古墳の盛り土や周溝などの遺構は検出されなかった。

E区（第12・13図、図版5～7）

最も北側に位置しており、6Aを中心とした大グリッドに位置している。東側には円墳と思われる高まりが所在しており、事業予定地内に約1/2が掛かるために調査を実施した（SM-002）。また、調査区内の伐採によって、西側にも古墳様の高まりがあったため、SM-003として調査を実施した。

第2節 検出した遺構（第3表）

（SM-001）（第11図）

D区に所在し、5B・5Cを中心とした大グリッドに位置している。調査前の地形図や現地での所見で前方部の一部が調査対象になった。調査では前方部が検出されると思われたが、確認トレンチと一部拡張して調査を実施したが、前方部と思われる痕跡や古墳の痕跡は検出されなかった。また、確認トレンチの土層観察の調査の結果でも、自然地形の高まりと判断され、事業地内までは前方後円墳の墳丘部はのびていないものと考えられた。そのため、本調査は実施しなかった。

第3表 遺構一覧

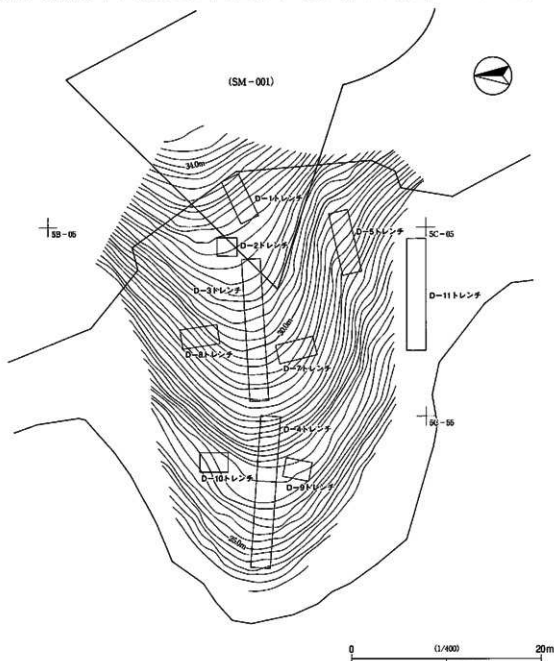
	遺跡コード	地点	遺構番号	時代	遺構種	規模(m)		
						長軸	短軸	高さ・深さ
1	341-011	D地点	(SM-001)			—	—	—
2	341-011	E地点	(SM-002)			—	—	—
3	341-011	E地点	SM-003	近世	塚	6	6	1
4	341-011	C地点	SA-001	近世以降	土塁	16	3	—
5	341-011	C地点	SA-002	近世以降	土塁	15	2.5	—
6			003					
7	341-011	C地点	SD-004	近世以降	溝状遺構	14	1.5	0.3
8	341-011	C地点	SD-005	近世以降	溝状遺構	9	1.4	0.2
9	341-011	C地点	SD-006	近世以降	溝状遺構	6	1.5	0.4
10	341-011	C地点	SD-007	近世以降	溝状遺構	5.7	1.2	0.5
11	341-011	C地点	SD-008	近世以降	溝状遺構	1.5	1.0	0.2
12	341-012		SI-001	奈良・平安時代	住居	(1.5)	(0.7)	約0.15
13	341-012		SK-001	奈良・平安時代	土坑	1.45	1.0	約0.1

(SM-002) (第12図、図版5・6)

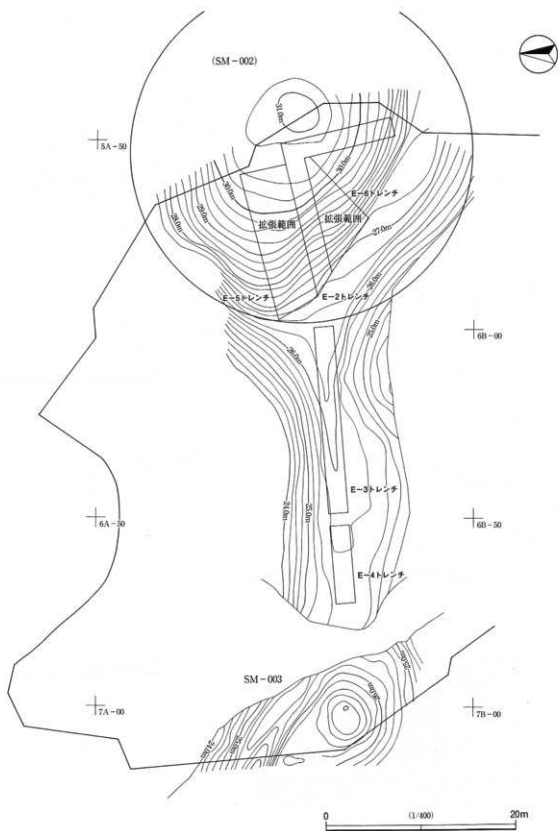
E区に所在し、5Aを中心として位置している。当初は直径30mにもなる大型の円墳と推定されていた。約1/2が路線外のために一部しか調査ができなかった。墳丘と推定される範囲にトレンチを設定し、盛り土および周溝の検出に努めたが、盛土、周溝や主体部などの遺構は検出されなかった。調査の結果、自然地形による高まりと判断され、本調査は実施しなかった。

SM-003 (第12・13図、図版6・7)

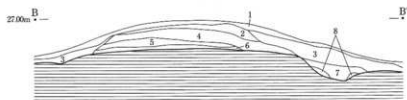
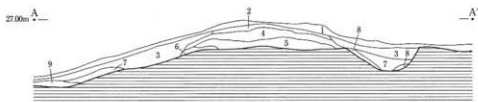
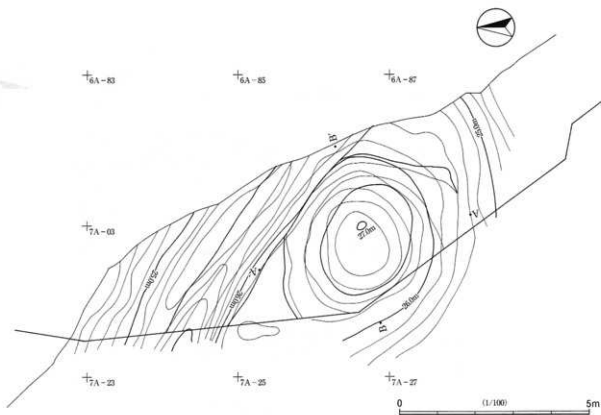
E区に所在し、7A-07を中心として位置している。当初は調査対象ではなかったが、伐採によって円墳と思われる高まりが確認されたため、調査を実施した。北側には現在は使用されていない小道があり、台地上の集落から谷津田へおりの古道と思われる。見かけの直径は約15m、高さ約2mであった。表土を除



第11図 D区 トレンチ配置図、地形測量図



第12図 E区 トレンチ配置図、地形測量図



- SM-003土層説明
- | | | |
|---|--------|---|
| 1 | 暗褐色土層 | 淡黄色砂質土・凝集土（表土層） |
| 2 | 暗褐色土層 | 淡黄色砂質土を主として、やや少量の暗褐色土を含む
3層に伏しているがやや暗褐色土が少ない（盛り土） |
| 3 | 暗淡褐色層 | 淡紫色砂質土を主として、暗褐色土を含む
1層に伏しているが、暗褐色土の含有が少ない（表土） |
| 4 | 褐色土層 | 淡黄色砂質土を主として、黒色の含有は少ない。
2層より褐色度が強い、やや少量の鉄分（褐色殻）を含む（盛り土） |
| 5 | 黄褐色土層 | 淡紫色砂質土が主体で、やや多量の鉄分（褐色殻）を含む
鉄分を除けば4層より強い色調（自然層横土） |
| 6 | 暗淡褐色土層 | 淡褐色土が主体で、やや弱い色調で粘性が強い。
鉄分を含まない（自然層横土） |
| 7 | 黒褐色土層 | 黒色土を主に、やや多量の淡黄色砂質土を含む（固着層土） |
| 8 | 暗淡褐色土層 | 淡黄色砂質土を主に、やや少量の黒色土を含む（固着層土） |
| 9 | 暗褐色土層 | 暗褐色土に加えて、やや多量の暗褐色土を含む（盛り土） |

第13図 E区 SM-003測量図

去した後の大きさは、直径約6m、周溝の幅は約2mを計り、ほぼ円形を呈していた。盛り土は2mほど残存していたが、地山の土と同種の土質であった。周辺及び盛り土内を精査したが、主体部と思われる遺構は検出されなかった。周溝の堆積土は3層が確認された。土層は内側から流れ込んでおり、当初はもっと高く盛りされていたものと思われる。直径が6mほどであることや、盛り土が単純に盛られていることなどから高塚古墳の可能性は低く、古墳と考えるよりも近世の塚と推定される。

図示できた出土遺物は、土師器が1点だけであった。時期は古墳時代前期のもので、塚とは時期的に異なっている。

その他の遺構

SA-001 (第10図)

C区から検出された。調査開始に伴い伐採作業を実施したところ、台地上から台地下へ向かって土塁状の高まりが2条確認された。南側をSA-001、北側をSA-002と呼称して調査を実施した。地形測量を実施し土層断面等を観察したが、盛り土に締まりがなく、意識的に盛った構造物の可能性は低いと判断された。溝SD-007を掘削した時の土砂を盛ったものの可能性がある。

SA-002 (第10図)

SA-001と同様で、C区から検出された。SA-001と同様に盛り土に締まりがなく、SD-005を掘削した時の土砂を盛ったものとも考えられる。

003

欠番

SD-004 (第10図、図版8)

C地点で最も高位から検出された溝状遺構である。SA-001、SA-002のあいだから検出された。SD-006と重複しておりSD-006よりも新しい。等高線にはほぼ並行する形で検出された。調査区外に続いており、全体は調査できなかった。検出された規模は長さ14m、幅1.5mをはかる。検出面からの深さは約0.3mと浅い。中央部に土坑があり、土坑内から焼土粒及び炭化物粒が出土した。溝の覆土中に硬化面があり、道路状遺構として考えられる。検出された範囲のほぼ中央部に炭化粒が集中している部分があったが、性格は不明である。

SD-005 (第10図、図版8)

C地点の最も北側から検出された溝状遺構である。覆土の中位で硬化面が確認された。検出された硬化面の範囲は長さ約1.8m、幅約0.3mである。台地上から台地下の水田等へ下りる小道として使用されていたものと推定される。この溝に沿ってSA-002がある。

SD-006 (第10図、図版8)

C区のほぼ中央から検出された。SD-004と重複しており、SD-004よりも先行し古い。検出された溝

の長さは約6m、幅は約1.5mである。台地上から斜めに台地下へ続く小道と思われる。

SD-007 (第10図、図版8)

C区から検出され、SA-001に沿うような状況で検出された溝状遺構である。検出された遺構の長さは約5.7m、幅は1～1.5mである。楕円形の土坑が連続している様な形状をしている。

SD-008 (第10図、図版8)

C区のなかで最も南側から検出された溝状遺構である。谷側の約半分は残存していなかった。検出された遺構の長さは約1.5m、幅は約1mである。地山と覆土の差が不明瞭であった。

第3節 出土遺物 (第14図、第4表、図版11～18)

1 土器

SM-003出土遺物 (1) (第14図、図版11)

SM-003からは1点の遺物が実測できたが、古墳時代前期の土器で、SM-003に伴う遺物ではない。

1は壺形土器の折返し口縁部片である。内外面ともに暗褐色。胎土は砂粒を多く含むが良好、焼成は普通である。内外面はナデを施す。摩滅が激しい。

C区4D(1)・4D(2)トレンチ出土遺物 (2・3) (第14図、図版11)

2は土師器で小型の碗形土器である。胴部から底部の約1/3が残存する。内外面ともに暗褐色。胎土は砂粒を多く含むが良好で、焼成も良好である。内外面ともにナデを施す。3は須恵器で甕形土器の胴部片で転用碗と思われる。色調は暗青灰色で、断面はにぶい橙色。胎土は緻密で焼成は良好である。外面にはタタキを施す。

4E-04出土遺物 (4～8) (第14図、図版11)

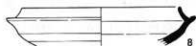
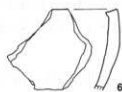
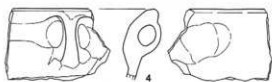
4～7は内耳鍋の破片である。4の胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面は黒褐色、内面は暗黄褐色。内外面ともにナデを施す。外面には煤が付着している。5の胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面は黒褐色、内面は暗茶褐色。内外面ともにナデを施す。外面に煤が付着している。6の胎土は雲母を含む。焼成は良好である。外面は黒褐色、内面は暗茶褐色。内外面ともにナデを施す。外面には煤が付着している。7は内耳鍋の底部片である。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。内外面ともに暗茶褐色。内外面ともにナデを施す。8は須恵器の杯形土器の破片である。内外面ともに暗灰白色。胎土は緻密で焼成は良好である。外面はハラケズリ、内面はナデを施す。

4E-11出土遺物 (9～15) (第14図、図版11)

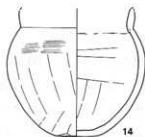
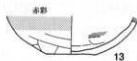
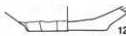
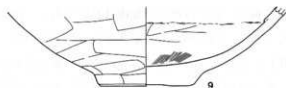
9は土師器で甕形土器の底部片である。内外面ともに暗黄褐色。胎土は砂粒を含むが良好、焼成も良好である。外面はハラケズリ、内面はハケメを施す。底部には木葉痕が認められる。10は土師器で甕形土器の底部片である。外面は暗赤褐色、内面は暗黒褐色。胎土は砂粒を含みもろい。焼成は良好であるが、二次焼成を受けている。外面はハラケズリ、内面はハラナデを施す。11は土師器で甕形土器の底部片である。



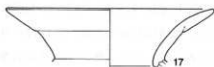
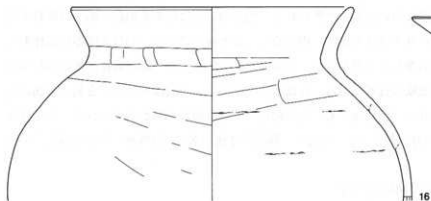
4E-04



4E-11



4E-12



0 (1/3) 10cm

第14図 SM-003、4D、4E遺物実測図

外面は明赤黄褐色、内面は黒褐色。胎土は砂粒を含みもろい。焼成は良好であるが二次焼成を受けている。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデを施す。12は土師器で甕形土器の底部片である。外面は明赤黄褐色、内面は黒褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラナデ、内面はナデを施す。13は土師器で小型甕形土器の底部片である。外面は黒褐色、内面は暗黄褐色。胴部上部外面に赤彩が認められる。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラケズリを施した後ミガキ、内面はヘラナデを施す。14は土師器の小型甕形土器で胴から上の約1/2を欠損する。内外面ともに暗黒褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラケズリ後にハケメを、内面はヘラナデを施す。15は土師器で器台形土器の脚部片である。内外面ともに暗赤褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラケズリ、内面はヨコヘラケズリを施す。脚部に3孔がある。

4E-12出土遺物 (16・17) (第14図、図版11)

16は土師器で甕形土器の胴以下を欠損する。内外面ともに暗茶褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラケズリ後ナデ、内面はヘラナデを施す。17は土師器で壺形土器の有段口縁部片である。内外面ともに暗黄褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はミガキ、内面はナデを施す。

4E-13出土遺物 (18~20) (第15図、図版11・12)

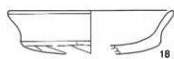
18は土師器で杯形土器の杯部片である。内外面ともに暗赤褐色。胎土は緻密で焼成は良好である。内外面ともに摩滅している。19は土師器で器台形土器の脚部片である。内外面ともに暗黄褐色。胎土は緻密で焼成は良好である。内外面ともに摩滅している。脚部下に2孔があり、全体で3孔があると推定される。20は土師器でミニチュア土器である。内外面は暗黄褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。内外面ともにナデを施し、内面には輪積痕が見られる。内外面ともに摩滅している。

4E-21出土遺物 (21~26) (第15図、図版12)

21は土師器で甕形土器の底部片である。内外面ともに暗黄褐色。胎土は砂粒を多く含む。焼成は良好である。22は土師器で甕形土器の底部片である。外面は暗赤褐色、内面は暗茶褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラケズリ、内面はナデを施す。二次焼成を受けている。23は土師器で高杯形土器の脚部片である。内外面ともに暗赤茶褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデを施す。内外面ともに摩滅している。24は土師器で高杯形土器の脚部片である。残存する柱部はほぼ同じ太さで、裾部は短めに開くと思われる。内外面ともに暗赤茶褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラケズリを施す。内外面ともに摩滅している。25は土師器で高杯形土器の脚部片である。杯部の底部が剥離したと思われる。内外面ともに暗黄褐色。脚部外面に赤彩の痕跡が見られる。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデを施す。26は土師器で器台形土器の脚部片と思われる。内外面ともに暗黄褐色。脚部外面に赤彩が認められる。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。内外面ともにナデを施す。脚部に3孔がある。内外面ともに摩滅している。

4E-22出土遺物 (27~50) (第15図、図版12・13)

27は土師器の甕形土器で口縁部の約1/4が残存する。内外面ともに暗赤褐色。胎土は砂粒を含むが、焼



18



19



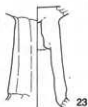
20

4E-13

4E-21



21



23



24



25

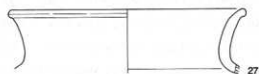


26

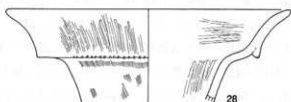


22

4E-22



27



28



29



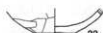
30



31



32



33



34



35



36



39



37



38



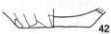
43



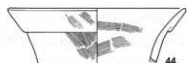
40



41



42



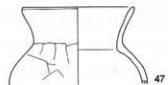
44



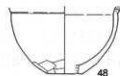
45



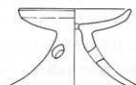
46



47



48



49



50

0 (1/3) 10cm

第15図 4E-13、4E-21、4E-22遺物実測図

成は良好である。内外面ともにナデを施す。二次焼成を受けている。28は土師器で壺形土器の有段口縁部片である。内外面ともに明黄褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。有段口縁部の下端にはキザミがある。外面には細かなハケメが見られる。口縁部はタテミガキ、内面はナデを施す。29は土師器で小型の壺形土器の底部片である。内外面ともに暗茶褐色。外面の一部に赤彩の痕跡が認められる。胎土は砂粒を含むが良好で、焼成も良好である。内外面ともにナデを施す。30は土師器で壺形土器の底部片である。外面は暗黒褐色、内面は暗褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデを施す。31は土師器で甕形土器の底部片である。内外面ともに暗黒褐色。胎土は緻密で、焼成は良好である。外面はヘラケズリ、内面はナデを施す。32は土師器で甕形土器の底部片である。外面は暗黒褐色、内面は暗褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデ後ヘラケズリを施す。33は土師器で鉢形土器の底部片と思われる。外面は暗黒褐色、内面は暗褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデ後ヘラケズリを施す。34は土師器で鉢形土器の底部片である。外面は暗黒褐色、内面は暗褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデとヘラケズリを施す。35は土師器で小型甕形土器の底部片である。内外面ともに明黄褐色。胎土は緻密で焼成は良好である。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデとヘラケズリを施す。36は土師器で小型甕形土器の底部片である。外面は明黄褐色、内面は暗褐色。胎土は緻密で茶色砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデとヘラケズリを施す。底部は上げ底気味である。37は土師器で甕形土器の底部片である。外面は明黄褐色、内面は明褐色。胎土は緻密で焼成は良好である。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデとヘラケズリを施す。38は土師器で甕形土器の底部片である。外面は暗赤褐色、内面は暗黒褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデを施す。内外面ともに摩滅している。二次焼成を受けている。39は土師器で甕形土器の底部片である。内外面ともに暗黒褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラケズリ、内面はナデを施す。内外面ともに摩滅している。40は土師器で杯形土器の底部片と思われる。外面は赤褐色、内面は黒色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラケズリ、内面はミガキを施す。内面に煤が付着している。41は土師器で甕形土器の底部片である。外面は暗黄褐色、内面は暗褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデを施す。内外面ともに摩滅している。42は土師器で甕形土器の底部片である。外面は黒褐色、内面は暗黄褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデを施す。内外面ともに摩滅している。43は土師器で甕形土器の底部片である。内外面ともに黒褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデを施す。44は土師器で甕形土器の口縁部片である。外面は黒褐色、内面は暗黄褐色。胎土は砂粒を含むが緻密で、焼成は良好である。外面、口縁部外面に細かなハケメがみられ、内面の口縁部には横方向のハケメが、胴部には斜め方向のハケメを施す。45は土師器で小型壺形土器の底部片である。内外面ともに黒褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面底部周囲はヘラケズリ、内面はナデを施す。46は土師器で小型壺形土器で、肩部から上を欠損する。外面は暗黄褐色部分と暗黒褐色部分がある。内面は暗黄褐色。胎土は暗茶褐色粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデを施す。47は土師器で埴形土器の口縁部片である。内外面ともに暗黄褐色。胎土は緻密で、焼成は良好である。外面はヘラケズリ後ナデ、内面もナデを施す。内外面ともに摩滅している。48は土師器で小型鉢形土器で底部から頸部までの一部が残存する。内外面ともに暗黄褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好であ

る。外面はヘラケズリ後ナデ、内面はヘラケズリを施す。二次焼成を受けている。49は土師器で器台形土器の脚の一部を欠損している。内外面ともに明黄褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。摩滅している。外面はナデ、脚部内面はヘラナデを施す。脚部に3孔がある。50は土師器で器台形土器の脚部片と思われる。内外面ともに明黄褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はナデ、内面はヘラナデを施す。内外面ともに摩滅している。

4E-23出土 (51~59) (第16図、図版13)

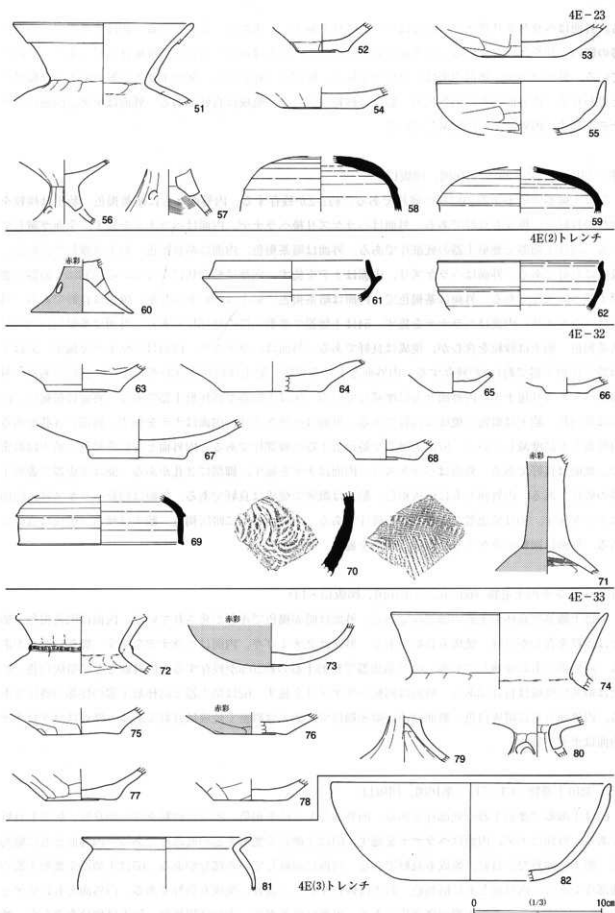
51は土師器で壺形土器の口縁の破片である。約1/2が残存する。内外面ともに暗黄褐色。胎土は砂粒を含むが良好で、焼成も良好である。外面はヘラケズリ後ヘラナデ、内面はヘラナデを施す。全面摩滅している。52は土師器で壺形土器の底部片である。外面は暗茶褐色、内面は暗黄褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラケズリ、内面はナデを施す。底部は輪台状になっている。53は土師器で壺形土器の底部片である。外面は茶褐色で、内面は暗茶褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデを施す。54は土師器で壺形土器の底部片である。外面は茶褐色、内面は暗茶褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデを施す。55は土師器で杯形土器で約1/2が残存する。内外面ともに茶褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラケズリ後ナデ。内外面ともに摩滅している。56は土師器で高杯形土器である。外面は黄褐色、内面は茶褐色。胎土は緻密で焼成は良好である。外面はヘラケズリ、内面はナデを施す。脚部に3孔がある。内外面ともに摩滅している。57は土師器で器台形土器の脚部片である。内外面ともに黄褐色。胎土は緻密で、焼成は良好である。外面はヘラケズリ、内面はナデを施す。脚部に3孔がある。58は須恵器で壺形土器の破片である。内外面ともに暗灰褐色。胎土は緻密で焼成は良好である。外面は回転ヘラケズリ、内面はナデを施す。59は須恵器で壺形土器の破片である。内外面ともに暗灰褐色。胎土は緻密で焼成は良好である。外面は回転ヘラケズリ、内面はナデを施す。

4E(2)トレンチ出土遺物 (60~62) (第16図、図版13・14)

60は土師器で高杯形土器の脚部片である。外面は暗赤褐色で赤彩が施されている。内面は明黄褐色。胎土は砂粒を含むが良好、焼成も良好である。外面はタテミガキ、内面はヘラナデを施す。脚部に3孔がある。内外面ともに摩滅している。61は須恵器で杯形土器の約20%が残存する。内外面ともに暗灰白色。胎土は緻密で焼成は良好である。外面は回転ヘラケズリを施す。62は須恵器で高杯形土器の杯部の破片である。内外面ともに暗灰白色。断面は淡い暗赤褐色で、胎土は緻密で焼成は良好である。外面はロクロナデ、内面はナデを施す。

4E-32出土遺物 (63~71) (第16図、図版14)

63は土師器で壺形土器の底部片である。内外面ともに暗茶褐色。胎土は砂粒を含むが良好、焼成も良好である。外面はナデ、内面はヘラナデを施す。64は土師器で壺形土器の底部片である。内外面ともに暗褐色。胎土は砂質だが良好、焼成も良好である。内面に剥離している部分がある。65は土師器で壺形土器の底部片である。内外面ともに暗褐色。胎土は砂粒を含むが良好、焼成も良好である。内外面ともにナデを施す。66は土師器で壺形土器の底部片である。外面は暗茶褐色、内面は黒褐色。胎土は砂粒を含むが、焼



第16図 4E-23、4E(2)トレンチ、4E-32・33、4E(3)トレンチ遺物実測図

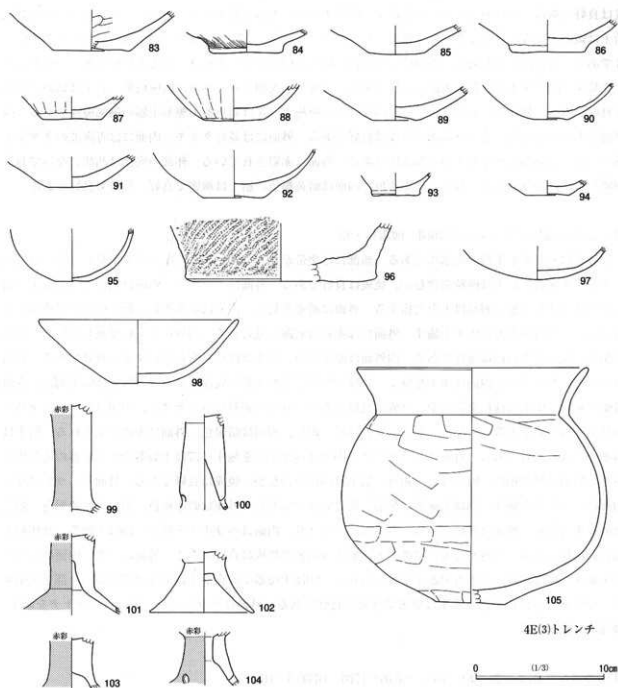
成は良好である。内外面ともにナデを施す。67は上師器の甕形土器の底部片である。内外面ともに暗褐色。胎土は緻密で焼成は良好である。内外面ともにヘラケズリ後にミガキを施す。68土師器で甕形土器の底部片である。外面は暗黒茶褐色、内面は暗茶褐色。胎土は砂粒を含むが良好、焼成も良好である。外面はナデを施す。69は須恵器で蓋形土器の破片である。天井部を欠損する。外面は暗灰白色。胎土は緻密で焼成も良好である。外面は回転ヘラケズリ、内面はナデを施す。70は須恵器の甕形土器の胴部破片である。内外面ともに暗青灰色。胎土は緻密で焼成は良好である。外面には並行タタキ、内面には青海波のタタキを施す。71は土師器で高杯形土器の脚部片である。外面は赤彩されている。杯部の底部は凸状になっており剥離した痕跡が見られる。外面は暗赤茶色、内面は暗黄褐色。胎土は緻密で良好、焼成も良好である。

4E-33出土遺物 (72~80) (第16図、図版14・15)

72は上師器で壺形土器の頸部片である。頸部には突帯があり竹管による押圧竹管文が見られる。内外面ともに暗黄褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラナデ、内面は指頭圧痕を施す。73は土師器で鉢形土器で胴部以上を欠損する。外面は暗赤茶褐色、内面は暗黄褐色。胎土は砂質で焼成は良好である。内外面ともにナデを施す。外面には赤彩の痕跡が見られる。内外面ともに摩滅している。74は土師器で甕形土器の口縁部片である。内外面は暗茶褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラケズリ、ナデ、内面はナデを施す。75は上師器で甕形土器の底部片である。外面は暗茶褐色、内面は暗黒褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面の調整はヘラケズリ、内面はヘラナデを施す。76は土師器で鉢形土器の底部片である。外面は暗赤褐色、内面は暗褐色。外面に赤彩が見られる。胎土は緻密で焼成は良好である。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデを施す。77は土師器で甕形土器の底部片である。外面は黒茶褐色、内面は暗黄褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデを施す。78は土師器で甕形土器の底部片である。外面は暗赤褐色、内面は暗黄褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデを施す。79は土師器で高杯形土器の脚部片である。内外面ともに暗黄褐色。胎土は緻密で焼成は良好である。外面はナデ、内面はヘラナデを施す。脚部に孔らしきものが1か所見られる。80は土師器で器台形土器で受け部と脚の一部を欠損する。内外面ともに黄褐色。胎土は緻密で焼成は良好である。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデを施す。脚部に3孔がある。

4E(3)トレンチ出土遺物 (81~105) (第16・17図、図版15・16)

81は土師器で小型壺形土器の口縁部片である。内外面ともに明黄褐色。胎土は緻密で焼成は良好である。内外面ともにナデを施す。82は土師器で鉢形土器で底部を欠損する。内外面ともに暗赤褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラケズリ、ナデ、内面はナデを施す。83は土師器で壺形土器の底部である。外面は暗赤褐色、内面は暗黄褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はナデ、ヘラケズリ、内面はナデを施す。84は土師器で壺形土器の底部片である。内外面ともに暗黄褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はヘラケズリ、内面はナデを施す。85は土師器で壺形土器の底部片である。内外面ともに暗黄褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。内外面ともにナデを施す。内外面ともに摩滅している。86は上師器で壺形土器の底部片である。内外面ともに黄褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。内外面ともにナデを施す。内外面ともに摩滅している。87は土



第17図 4E(3)トレンチ遺物実測図

師器で壺形土器の底部片である。内外面ともに黄褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はタテヘラナダ、ナダ、内面はナダを施す。内外面ともに摩滅している。88は土師器で壺形土器の底部片である。内外面ともに黄褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はタテヘラナダ、ナダ、内面はナダを施す。内外面ともに摩滅している。89は土師器で壺形土器の底部である。外面は黄褐色、内面は黒褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。内外面ともにナダを施す。底部は上げ底、内外面ともに摩滅している。90は土師器で壺形土器の底部片である。内外面ともに明茶褐色。胎土は砂粒を含むが、

第4表 名木馬場遺跡土器観察表

観測番号	番号	遺物番号	器形	素材	発見率 %	単位: cm. (口は復元値、推定値)				色調		胎土	焼成	形状・装飾		備考	
						口径 長さ	最大径	高さ・幅	器高・残存 高・厚さ	外側	内側			外側	内側		
																	外側
14	1	SM-003	1.6	土師器	折返し口縁	口縁部	(13.5)		(4.35)	暗褐色	暗褐色	砂質を多く含む	青洲	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	2	4D(1)	1	土師器	小形壺	壺	30		(2.8)	(2.6)	暗褐色	暗褐色	砂質を多く含むが良好	良好	ナテ	ナテ	
14	2	4D(2)	2	土師器	甕	甕腹片	90	11.1		暗褐色	暗褐色	良好	ナテ	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	4	4E-04	1	土師器	土師器	内耳部	甕片			黒褐色	黒褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	5	4E-04	1	土師器	土師器	内耳部	甕片			暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	6	4E-04	1	土師器	土師器	内耳部	甕片			黒褐色	黒褐色	炭屑を含む	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	7	4E-04	1	土師器	土師器	内耳部	甕腹片			暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	8	4E-04	1	土師器	甕	甕片	(12.4)		丸底 (3.6)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	9	4E-11	3	土師器	甕	甕腹片		7.4	(6.2)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	10	4E-11	2	土師器	甕	甕腹片		4.4	(1.9)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	11	4E-11	3	土師器	甕	甕腹片		6.5	(2.2)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	12	4E-11	2	土師器	甕	甕腹片		6.2	(1.9)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	13	4E-11	1	土師器	小形壺	甕腹片		4.0	(3.0)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	14	4E-11	1.2	土師器	小形壺	甕腹片	(18.6)	(10.9)	3.4	(3.1)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大
14	15	4E-11	1	土師器	甕	甕腹片			(4.5)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	16	4E-12	1.2, 4.5, 6, 13-12	土師器	甕	甕腹片	20.0		(10.3)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	17	4E-12	2	土師器	甕	甕腹片	(16.3)		4.5	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	18	4E-13	5	土師器	甕	甕腹片	30.0	(12.8)	丸底 (5.6)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	19	4E-13	5	土師器	甕	甕腹片			(6.4)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	20	4E-13	1	土師器	小形壺	甕腹片	30		(3.7)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	21	4E-21	4	土師器	甕	甕腹片		6.6	(1.9)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	22	4E-21	4	土師器	甕	甕腹片		(8.6)	(2.9)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	23	4E-21	3	土師器	高杯	甕腹片			(9.6)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	24	4E-21	1	土師器	高杯	甕腹片			(8.5)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	25	4E-21	3	土師器	高杯	甕腹片			(5.3)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	26	4E-21	3	土師器	甕	甕腹片			(2.8)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	27	4E-22	3	土師器	甕	甕腹片	25	(18.2)	(5.0)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	28	4E-22	5	土師器	甕	甕腹片	(21.1)		(7.3)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	29	4E-22	1	土師器	小形壺	甕腹片		3.3	(2.1)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	30	4E-22	3	土師器	甕	甕腹片		3.8	(1.3)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	31	4E-22	4	土師器	甕	甕腹片		3.8	(1.4)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	32	4E-22	1	土師器	甕	甕腹片		3.2	2.0	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	33	4E-22	3	土師器	甕	甕腹片		3.2	(2.0)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	34	4E-22	3	土師器	甕	甕腹片		3.4	(2.1)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	35	4E-22	3	土師器	小形壺	甕腹片		5.2	2.2	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	36	4E-22	2	土師器	小形壺	甕腹片		4.4	(2.3)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	37	4E-22	3	土師器	甕	甕腹片		4.5	(1.5)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	38	4E-22	3.4C-39	土師器	甕	甕腹片		7.4	(3.1)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	39	4E-22	3	土師器	甕	甕腹片		7.9	(5.1)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	40	4E-22	3	土師器	甕	甕腹片		6.9	(1.8)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	41	4E-22	3	土師器	甕	甕腹片		5.9	(1.9)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	42	4E-22	2	土師器	甕	甕腹片		5.6	(2.0)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	43	4E-22	3.4C-47	土師器	甕	甕腹片		6.6	(2.5)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	44	4E-22	2	土師器	甕	甕腹片	(13.8)		(4.4)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	45	4E-22	3	土師器	小形壺	甕腹片		6.0	(2.5)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	46	4E-22	3.4	土師器	小形壺	口縁部		5.6	(9.0)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	47	4E-22	3	土師器	甕	甕腹片	(8.6)		(6.1)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	48	4E-22	3.5	土師器	小形壺	甕	25		(2.8)	(2.3)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大
14	49	4E-22	3	土師器	甕	甕腹片	8.6		(6.3)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	50	4E-22	3	土師器	甕	甕腹片			(4.9)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	
14	51	4E-22	5	土師器	甕	口縁部	14.9		(6.4)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	厚燻大	

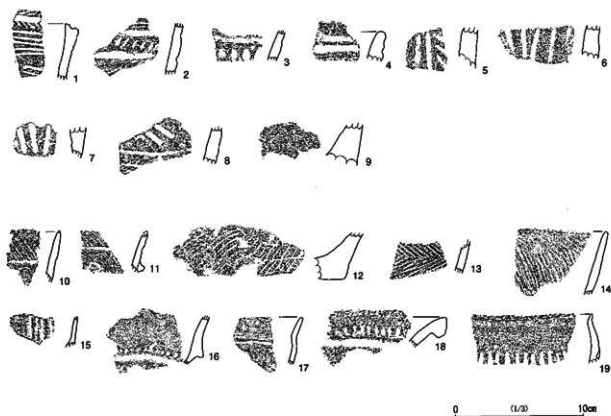
機号	番号	品番	品名	機種	用途	通存率 %	規格: 0.12mm定規, 每巻編				色調			塗工		塗布・調剤		備考	
							1層 長さ	最大径	直径・幅	厚さ・巻数	外面	内面	塗工	調剤	外面	内面			
16	22	4E-23	1	上巻部	裏	底層材			4.0	(2.2)	暗茶褐色	暗茶褐色	砂質	良好	ヘラケズリ	ナテ			
16	23	4E-23	8	上巻部	裏	底層材			6.5	(2.6)	黄褐色	暗茶褐色	砂質	良好	ヘラケズリ	ヘラケテ			
16	24	4E-23	1	上巻部	裏	底層材				(1.7)	黄褐色	暗茶褐色	砂質	良好	ヘラケズリ	ヘラケテ			
16	25	4E-23	5	上巻部	表	50	132			(4.2)	黄褐色	茶褐色	砂質	良好	ヘラケズリ	ナテ	線減大		
16	26	4E-23	5	上巻部	高粘	裏層材				(5.1)	黄褐色	茶褐色	砂質	良好	ヘラケズリ	ナテ	線減大	線減に3孔、線減大、外周巻部	
16	27	4E-23	3	上巻部	粘付	裏層材				(3.6)	黄褐色	黄褐色	糊塗	良好	ヘラケズリ	ナテ	線減に3孔		
16	28	4E-23	5	底巻部	裏	裏材				(4.3)	暗灰褐色	暗灰褐色	糊塗	良好	同粘ヘラケズリ	ナテ			
16	29	4E-23	3	底巻部	裏	20		丸底	3.6	(1.5)	暗灰褐色	暗灰褐色	糊塗	良好	同粘ヘラケズリ	ナテ			
16	30	4E30	3	上巻部	高粘	裏層材			7.95	(4.15)	暗赤褐色	暗赤褐色	砂質	良好	ミダキ	ヘラケテ		線減に3孔、線減大、外周巻部	
16	31	4E31	3	底巻部	高粘	20	(2.0)			(3.2)	暗灰白色	暗灰白色	糊塗	良好	同粘ヘラケズリ	ナテ			
16	32	4E31	1	底巻部	高粘	裏材	(2.8)			(3.8)	暗灰白色	暗灰白色	糊塗	良好	ナテ	ナテ	線減中赤褐色		
16	33	4E-32	3	上巻部	裏	底層材			5.8	(2.2)	暗赤褐色	暗茶褐色	砂質	良好	ナテ	ヘラケテ			
16	34	4E-32	3	上巻部	裏	底層材				(2.7)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ヘラケズリ	後ミダキ		内面に潤滑剤	
16	35	4E-32	3	上巻部	裏	底層材			2.9	(1.05)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	線減以上7倍		
16	36	4E-32	4	上巻部	裏	底層材			3.5	(1.25)	暗赤褐色	黄褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	外周巻部		
16	37	4E-32	4	上巻部	裏	底層材			7.2	(3.1)	暗赤褐色	暗茶褐色	砂質	良好	ヘラケズリ	ナテ	外周巻部		
16	38	4E-32	6	上巻部	裏	底層材			4.8	(1.6)	暗赤茶褐色	暗茶褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	線減以上7倍		
16	39	4E-32	2	底巻部	裏	裏材	(3.8)			(3.9)	暗灰白色	暗灰白色	糊塗	良好	同粘ヘラケズリ	ナテ			
16	40	4E-32	3	底巻部	裏	裏材					暗灰白色	暗灰白色	糊塗	良好	ナテ	ナテ	雲母紙		
16	41	4E-32	4	上巻部	粘付	裏層材				(3.1)	暗赤褐色	暗茶褐色	砂質	良好	ミダキ	ナテ	外周巻部		
16	42	4E-32	5	上巻部	粘付	裏層材				(4.5)	暗赤褐色	暗茶褐色	砂質	良好	ヘラケズリ	ナテ	線減に3孔		
16	43	4E-33	1	上巻部	裏	裏以下巻			2.4	(3.4)	暗赤茶褐色	暗茶褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	外周巻部、赤粉		
16	44	4E-33	5	上巻部	裏	口巻部	(3.6)			(5.9)	暗赤褐色	暗茶褐色	砂質	良好	ヘラケズリ	ナテ	外周巻部		
16	45	4E-33	1	上巻部	裏	底層材			6.0	(2.1)	暗赤褐色	暗茶褐色	砂質	良好	ヘラケズリ	ヘラケテ			
16	46	4E-33	1	上巻部	裏	裏層材			5.6	(1.7)	暗赤褐色	暗褐色	砂質	良好	ヘラケズリ	ナテ	外周巻部		
16	47	4E-33	3	上巻部	裏	底層材			5.6	(2.5)	暗赤褐色	暗灰茶褐色	砂質	良好	ヘラケズリ	ヘラケテ	線減大		
16	48	4E-33	4	上巻部	裏	底層材			5.8	(1.7)	暗赤褐色	暗茶褐色	砂質	良好	ヘラケズリ	ナテ	線減大		
16	49	4E-33	1	上巻部	高粘	裏層材				(3.7)	暗赤褐色	暗茶褐色	糊塗	良好	ナテ	ヘラケテ	線減に3孔		
16	50	4E-33	3	上巻部	粘付	裏層材				(4.1)	黄褐色	黄褐色	糊塗	良好	ヘラケズリ	ナテ	線減に3孔		
16	51	4E31	4	上巻部	小巻部	1層底層材	(3.2)			(4.1)	暗灰褐色	暗灰褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ			
16	52	4E31	2	上巻部	裏	1層底層材	(2.75)			(7.7)	暗赤褐色	暗赤褐色	砂質	良好	ヘラケズリ	ナテ			
17	53	4E31	4	上巻部	裏	裏部			(6.0)	(3.2)	暗赤褐色	暗茶褐色	砂質	良好	ナテ、ヘラケズリ	ナテ			
17	54	4E31	2	上巻部	表	裏部			(5.6)	(1.85)	暗赤褐色	暗茶褐色	砂質	良好	ナテ、ナテ	ナテ	線減大		
17	55	4E31	4	上巻部	表	裏部			4.3	(2.25)	暗赤褐色	暗茶褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	線減大		
17	56	4E31	4	上巻部	裏	裏部			5.8	(2.55)	黄褐色	黄褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	線減大		
17	57	4E31	4	上巻部	表	裏部			4.6	(1.8)	黄褐色	黄褐色	砂質	良好	ナテ、ヘラケズリ	ナテ	線減大		
17	58	4E31	4	上巻部	表	裏部			4.7	(2.8)	黄褐色	黄褐色	砂質	良好	ナテ、ヘラケズリ	ナテ	線減大		
17	59	4E31	4	上巻部	表	裏部			3.3	(2.7)	黄褐色	黄褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	線減以上7倍、内周巻部		
17	60	4E31	5	上巻部	表	裏部			2.7	(2.9)	暗赤褐色	暗茶褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	線減以上7倍、内周巻部		
17	61	4E31	4	上巻部	裏	裏部			3.85	(2.4)	暗灰褐色	暗灰褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	線減大		
17	62	4E31	3	上巻部	裏	裏部			4.75	3.8	黄褐色	黄褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	線減大		
17	63	4E31	3	上巻部	小巻部	裏部			3.5	(1.8)	黄褐色	黄褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	線減大		
17	64	4E31	4	上巻部	小巻部	裏部			3.85	(1.85)	黄褐色	黄褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	線減大		
17	65	4E31	1	上巻部	小巻部	裏部			(2.6)	(4.1)	暗赤褐色	暗赤褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	線減大		
17	66	4E31	1	巻定部	裏	裏部			(14.65)	(4.6)	暗赤褐色	暗茶褐色	糊塗	良好	調剤を多く含む	ナテ			
17	67	4E31	4	上巻部	裏	70				(2.6)	暗赤褐色	暗赤褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	線減大		
17	68	4E31	4	上巻部	裏	40	(15.6)			3.9	(5.0)	暗褐色	暗褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	線減大	
17	69	4E31	4	上巻部	高粘	裏部				(3.4)	暗赤褐色	暗茶褐色	砂質	良好	ナテ、ミダキ	ナテ	外周巻部		
17	70	4E31	3	上巻部	裏部	裏部				(7.4)	暗赤褐色	暗茶褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	線減に3孔、線減大		
17	71	4E31	3	上巻部	粘付	粘付を欠く			(7.5)	(6.25)	暗赤褐色	暗茶褐色	砂質を多く含む	良好	ミダキ	ナテ	外周巻部		
17	72	4E31	4	上巻部	粘付	粘付を欠く			8.0	(4.65)	暗赤褐色	暗茶褐色	砂質を多く含む	良好	ナテ	ナテ	線減大		
17	73	4E31	4	上巻部	高粘	裏部				(4.0)	暗灰褐色	暗灰褐色	砂質を多く含む	良好	ミダキ	ナテ	外周巻部		
17	74	4E31	4	上巻部	表	裏部				(4.15)	暗赤褐色	暗茶褐色	砂質を多く含む	良好	ナテ	ナテ	線減大、外周巻部		
17	75	4E31	4	上巻部	表	裏部			5.5	18.5	黄褐色	黄褐色	砂質	良好	ナテ	ナテ	外周巻部		

焼成は良好である。内外面ともにナデを施す。底部は上げ底、内面に剥離痕が見られる。91は土師器で壺形土器の底部片である。内外面ともに暗黒褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。内外面ともにナデを施す。92は土師器で壺形土器の底部である。内外面ともに黒褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。内外面ともにナデを施す。93は土師器で小型壺形土器の底部片である。内外面ともに黒褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。内外面ともにナデを施す。94は土師器で小型壺形土器の底部片である。内外面ともに黒褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。内外面ともにナデを施す。95は土師器で小型壺形土器の底部である。内外面ともに暗赤褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。内外面ともにナデを施す。内外面ともに摩擦している。96は弥生土器で壺形土器の底部片である。内外面ともに暗黄褐色。胎土は砂粒を多く含むが、焼成は良好である。内面はナデ、外面には異条斜縄文を施す。97は土師器で碗形土器で約70%が残存する。外面は暗赤褐色、内面は暗茶褐色。胎土は砂粒を多く含むが、焼成は良好である。外面はナデを施す。内外面ともに摩擦が見られる。98は土師器で碗形土器で約40%が残存している。外面は暗褐色、内面は黒褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は普通である。内外面ともにナデを施す。摩擦が見られる。99は土師器で高杯形土器の脚部である。外面は赤彩されている。外面は暗赤褐色、内面は暗茶褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はタテミガキ、内面はナデを施す。100は土師器で高杯形土器の脚部である。外面は暗黄褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。内外面ともにナデを施す。脚部に3孔がある。摩擦が激しい。101は土師器で高杯形土器で杯部を欠損する。内外面ともに暗赤褐色。外面は赤採されている。胎土は砂粒を含むが良好、焼成も良好である。外面は丁寧なミガキ、内面はナデを施す。102は土師器で高杯形土器で杯部と裾の一部を欠損する。外面は暗黄褐色、内面は黒褐色。胎土は砂粒を含むが良好、焼成も良好である。内外面ともにナデを施す。内外面ともに摩擦している。103は土師器で高杯形土器の脚部で、杯部と裾部を欠損する。外面は暗黒褐色。胎土は砂粒を含むが緻密で、焼成は良好である。外面はミガキ、内面はナデを施す。104は土師器で器台形土器の脚部で、受け部と脚裾部を欠損する。内外面は暗赤褐色。外面は赤採されている。胎土は砂粒を含むが良好、焼成も良好である。内外面ともにナデを施す。摩擦している。105は土師器で壺形土器で胴の一部を欠損している。内外面ともに黒褐色。胎土は砂粒を含むが良好、焼成も良好である。内外面ともにナデを施す。外面には煤が付着している。

縄文土器 (第18図、第5表、図版17)

C区で遺構に伴わないで出土した土器群で、三戸式・田戸下層式に比定されるものである。多くは沈線文系土器群である。

1は口縁部片。外面は中太の並行沈線、内面はヨコ割ぎ、口唇部は面取りされており、中央は中太沈線があり、両側に押圧のキザミを施す。2は胴部破片で、ヨコ方向に並行する太沈線が見られ、その間に爪形文を施す。3は口縁部片で、縦位のキザミ、キザミの下にはヨコ方向の太い沈線を施す。4は口縁部片で端部は丸い。横位の太い沈線を施す。5は胴部片で縦位の太い沈線を施す。6は胴部片で縦位の太い沈線と斜め方向の太い沈線を施す。7は胴部片で太い沈線が施され、沈線に赤色顔料が見られる。8は中太の沈線で横位に並行する中太沈線と上位に斜めの太沈線を施す。9は尖底土器の底部で、無文である。



第18図 縄文土器・弥生土器～土師器実測図

第5表 土器(拓影図)観察表

拓影番号	番号	遺物番号	発掘番号	種類	器種	遺存率 %	色調		胎土	焼成	彫形・調整	備考	
							外面	内面					
18	1	4E-21	7	1	縄文土器	鉢	口縁部片	黒茶褐色	黒茶褐色	緻密	普通	中大流行沈線、口唇部に沈線、キザミ	
18	2	4E-22	29	5	縄文土器	鉢	胴部片	暗黄褐色	暗黄褐色	砂質	普通	太い並行沈線、沈線の間に彫形文	
18	3	4E-23	10	3	縄文土器	鉢	口縁部片	暗黄褐色	暗黄褐色	砂質	普通	縦位のキザミ、横太沈線	
18	4	4E-22	31	5	縄文土器	鉢	口縁部片	暗黄褐色	暗黄褐色	砂質	普通	横太い沈線、口唇部丸い	
18	5	4E-22	32	5	縄文土器	鉢	胴部片	暗黄褐色	暗黄褐色	砂質	普通	横太い沈線	
18	6	4E-22	30	5	縄文土器	鉢	胴部片	暗黄褐色	暗黄褐色	砂質	普通	横太い沈線	
18	7	4E-12	5	1	縄文土器	鉢	胴部片	暗黄褐色	暗黄褐色	砂質	普通	太い沈線、沈線内に串刺	
18	8	4E-23	11	7	縄文土器	鉢	胴部片	暗黄褐色	暗黄褐色	砂質	普通	横沈線	
18	9	4E-14	1	1	縄文土器	鉢	尖底土器	暗茶褐色	暗茶褐色	砂粒を多く含む	普通	無文	
18	10	4E23	5	2	弥生土器	小皿	口縁部片	黒茶褐色	黒茶褐色	緻密	良好	斜縄文、孔ある、口縁波状	4E-13-4に類似
18	11	4E23	4	3	弥生土器	皿	胴部片	暗黄褐色	暗黄褐色	砂質	良好	羽状縄文、縄文押止	
18	12	4E-12	3	8	弥生土器	皿	底部片	明黄褐色	明黄褐色	砂質	不良	斜縄文	
18	13	4E-13	4	5	弥生土器	小皿	口縁部片	黒茶褐色	黒茶褐色	緻密	良好	斜縄文、イボ状突起あり	
18	14	4E-22	27	2	弥生土器	鉢	口縁部片	明黄褐色	明黄褐色	緻密	良好	ナメミ織いハケメ、ミガキ	
18	15	4E-32	10	6	弥生土器	皿	口縁部片	明黄褐色	明黄褐色	緻密	良好	棒状浮文2本	磨滅している
18	16	4E-22	25	2	弥生土器	皿	口縁部片	暗黄褐色	暗黄褐色	砂質	普通	口縁部は大きく外反	有段口縁
18	17	4E-22	26	3	弥生土器	皿	口縁部片	暗黄褐色	暗黄褐色	砂質	普通	口唇部所り返し	口縁部下端キザミ
18	18	4E-22	28	3	弥生土器	小皿	口縁部片	暗茶褐色	暗茶褐色	緻密	良好	ヨコナデ	
18	19	4E-12	4	8	弥生土器	鉢	口縁部片	暗黄褐色	暗黄褐色	緻密	普通	外唇部拡大	

弥生土器～古式土師器 (第18図、第5表、図版17)

弥生時代後期から古墳時代前期の土器群である。これらも4E区からの出土である。

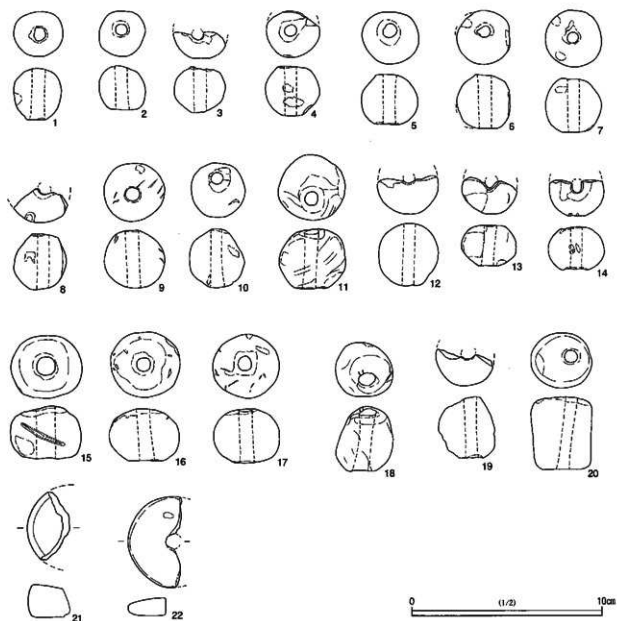
10は小型壺形土器の口縁部片である。外面は斜縄文、口唇部は波状を呈する。11は小型壺形土器である。外面には斜縄文、口縁部と胴部の境にはイボ状突起が見られる。12は底部片である。外面は縄文、胎土は砂粒を多く含む。13は甕形土器の胴部片である。外面には羽状縄文が施されている。内外面ともに暗茶褐色。胎土・焼成は良好である。14は鉢形土器の口縁部片である。外面は斜めハケ整形、内面はミガキを施す。15は壺形土器の口縁部片である。2本の棒状浮文を施す。16は壺形土器の口縁部片である。有段口縁、口縁部下端には押圧がある。17は壺形土器の口縁部片である。折返口縁、口縁部下端にキザミを施し、内外面無紋。18は小型壺形土器の口縁部片である。外面はミガキ、内面はナデを施す。19は鉢形土器の口縁部片と思われる。口縁下端にキザミがあり、口唇下でくびれる。

2 土製品 (第19図、第6表、図版17)

全部で22点を図化した。1～20は断面円形の土製土玉である。21は断面が厚い。22は断面が薄く、土製紡錘車と思われる。形状はあまり規格性はないが、強いて分類すれば、1～12の断面はほぼ円形であるのに対して、13～17は楕円型をしている。18～20はやや形の崩れた筒状をしている。9・11は表面に赤彩がされており、両者は全体の中でも大形の土玉であり、他の土玉と使用目的が異なっている可能性も考えられる。

第6表 土製品観察表

押図 番号	番号	遺構番号	遺物 番号	種別	遺存度 (%)	長さ (mm)	幅 (mm)	孔径 最大値 (mm)	重量 (g)	備 考
19	1	4D(1)トレ	1	丸形	完形	16.20	25	7	16.2	
19	2	4E-23	5	丸形	完形	23.50	24.00	6.00	13.37	
19	3	4E(3)トレ	4	丸形	50	24.00	26.5		7.14	
19	4	4E-23	1	丸形	50	26.00	28.00	6.00	12.90	
19	5	4E-13	2	丸形	完形	26.50	29.50	7.00	20.94	
19	6	4E-32	3	丸形	80	28.50	23.00	6.00	21.48	
19	7	4E(3)トレ		丸形	90	29.00	29.50	5.00	22.09	
19	8	4E-21	3	丸形	50	29.50	27.50	6.00	10.59	
19	9	4E-22	5	丸形	完形	30.00	31.50	7.00	26.33	外面赤彩か?
19	10	4E-33	4	丸形	90	31.00	28.50	6.00	23.54	
19	11	4E-22	5	丸形	完形	31.50	35.00	7.00	37.33	外面赤彩か?
19	12	4E-33	4	丸形	50	32.00	31.00	6.00	16.63	
19	13	4E-21	3	丸形	45	21.00	29.00	10.29	10.29	
19	14	4E-11	2	丸形	40	22.50	29.50	6.50	10.41	
19	15	4E-22	3	丸形	完形	22.80	37.00	9.00	33.57	
19	16	4E(2)トレ	3	丸形	完形	27.00	36.50	7.50	32.50	
19	17	4E(3)トレ	4	丸形	完形	29.00	34.50	6.50	30.38	
19	18	4E-11	2	台形	完形	22.50	29.50	19.50	27.45	
19	19	4E(3)トレ	4	台形	50	30.20	29.50	6.50	13.97	
19	20	4E-11	2	筒形	完形	37.00	32.00	6.00	44.88	
19	21	4E-11	2	紡錘車?	25	3.60	2.20	1.70	13.04	
19	22	4E(2)トレ	1	紡錘車?	40	48	27.50		12.81	



第19図 土製品実測図

3 埴輪 (第20図、第7表、図版18)

すべて4D・4Eグリッドから出土した。出土した埴輪片は12片で、そのうち5点が図示できた。すべてが小破片である。破片は円筒埴輪の破片で、透かし・凸帯を有するものもある。

1は口縁部片である。外面はタテ・ナナメ方向のハケメ、内面はヨコ方向のハケメ調整を加えている。口唇部は面取りされ、丁寧にナデを施す。2は透かし穴を持つ破片である。外面は細かなタテ方向のハケメ、内面はナデ調整を施す。上位には凸帯が剥離したと思われる痕跡が見られる。3、4は凸帯を持つ破片である。外面はタテ方向のハケメ、内面はナデ調整を施す。摩滅しており、詳細は不明である。5は基底部の破片である。外面は粗いタテ方向のハケメ、内面は粘土帯の痕跡が残るがナデ調整を施す。



第20図 埴輪実測図

第7表 埴輪観察表

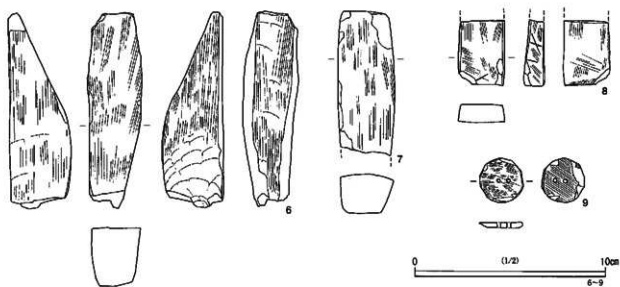
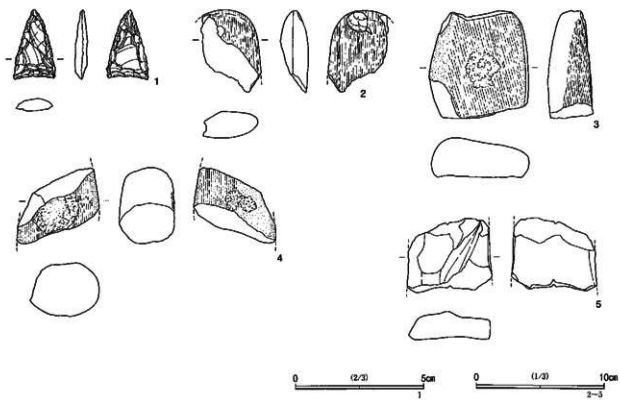
埴田 番号	番号	造構番号	遺物 番号	種別	遺存状態 部位	遺存率 %	色調		胎土	焼成	整形・調整		備考
							外面	内面			外面	内面	
20	1	表採	表採	円筒埴輪	口縁部片	破片	明黄褐色	明黄褐色	緻密	良好	タテハケメ	ヨコハケメ	
20	2	4E-04	1	円筒埴輪	透かしあり	破片	明黄褐色	明黄褐色	緻密	良好	細かハケメ	ナデ	
20	3	4E-32	1	形象埴輪	突帯	破片	明黄褐色	明黄褐色	緻密	良好	凸帯、ナデ	ナデ	摩滅
20	4	SD-004	1	形象埴輪	突帯	破片	明黄褐色	明黄褐色	緻密	良好	凸帯、ナデ	ナデ	摩滅
20	5	4E-04	1	円筒埴輪	基底部	破片	明黄褐色	明黄褐色	緻密	良好	タテハケメ	輪轆痕、ナデ	

4 石製品 (第21図、第8表、図版18)

1は頁岩製の石鎌、ほぼ完形品である。2は磨製石斧の破片である。残存している長さは6.5cm、幅4.8cm、厚さ2.1cmで、重さ70.67gをはかる。刃部が残存するが、刃部に敲打による欠損が見られる。3は敲石の破片である。4D区のトレンチから出土した。長さ8.5cm、幅7.9cm、厚さ3.2cmである。重さ357.74gである。4は4E区から出土した。敲石の破片である。長さ6cm、幅6.5cm、重さ140.48gである。片面の中央部に凹みがある。破面以外は摩滅している。5は砥石で片面には凹凸が有り、溝状に近い擦痕が見られる。6・7は角柱形をした砥石である。全面に使用痕が見られ、6は自然面を利用している。7は長面には歯状の擦痕、あるいは砥石作成時の成形痕が見られる。8は砥石、残存長3.5cm、幅2.45cm、厚さ0.95cmである。使用面には細かな金属製品による擦痕が見られる。9は滑石製の有孔円盤である。径は2.3cmで小型の部類に属する。孔は2個ある。

第8表 石製品観察表

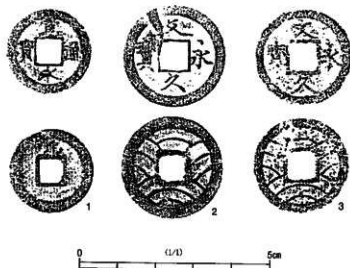
図版番号	掲載番号	造構グリッド	遺物No	種別	単位: mm、現存値			単位 g
					長さ	巾	厚み	重さ
21	1	4E-13	6	石鎌	2.80	1.60	0.50	1.95
21	2	4E-33	4	磨製石斧	6.50	4.80	2.10	70.67
21	3	4D-1トレ	2	磨石	8.50	7.90	3.20	357.74
21	4	4E-23	6	磨石	6.00	6.50	4.20	140.48
21	5	4E-23	6	砥石	5.80	6.70	2.25	94.87
21	6	B区第1トレンチ	1	砥石	10.40	2.80	3.10	109.88
21	7	4E-04	1	砥石	7.60	3.00	2.10	82.22
21	8	4E-33	1	砥石	3.50	2.45	0.95	12.72
21	9	SD-006	1	有孔円盤	2.30	2.30	0.30	2.64



第21圖 石器、砥石、石製品実測図

5 銭貨（第22図、第9表、図版18）

銭貨は全部で2点が出土した。1は寛永通宝、2は文久通宝である。1の寛永通宝は「新寛永」である。名木馬場遺跡4E(2)トレンチ内から出土した。遺構はなかった。文銭で裏面には「文」の文字が読める。2・3の文久通宝の裏面には青海波がある。2は名木馬場遺跡E区に設置したE-5トレンチから出土した。1と同様に遺構は確認されなかった。3は第3章第2節でふれる。



第22図 銭貨拓影図

第9表 銭貨観察表

採掘 書号	番号	遺跡名	出土位置	銭名	初鋳年	計測値 (単位: cm)					重量 (g)	備考
						縁外径	縁内径	郭外径	郭内径	縁厚		
22	1	名木馬場	4E(2)トレンチ	寛永通寶	1668	22.5	18.4	9.3	6.9	1.0	1.93	文銭
22	2	名木馬場	E-5トレンチ	文久通寶	1862	27.3	21.6	9.3	7.1	1.1	4.45	青海波文
22	3	名木の場台	A区 トレンチ	文久通寶	1862	25.6	21.9	9.9	7.6	0.8	2.19	青海波文

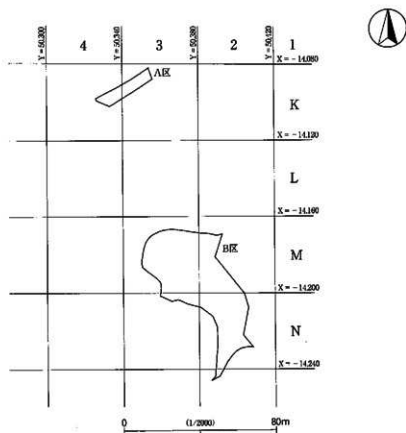
第3章 名木の場台遺跡

第1節 概要(第2・23図、第1表、図版9)

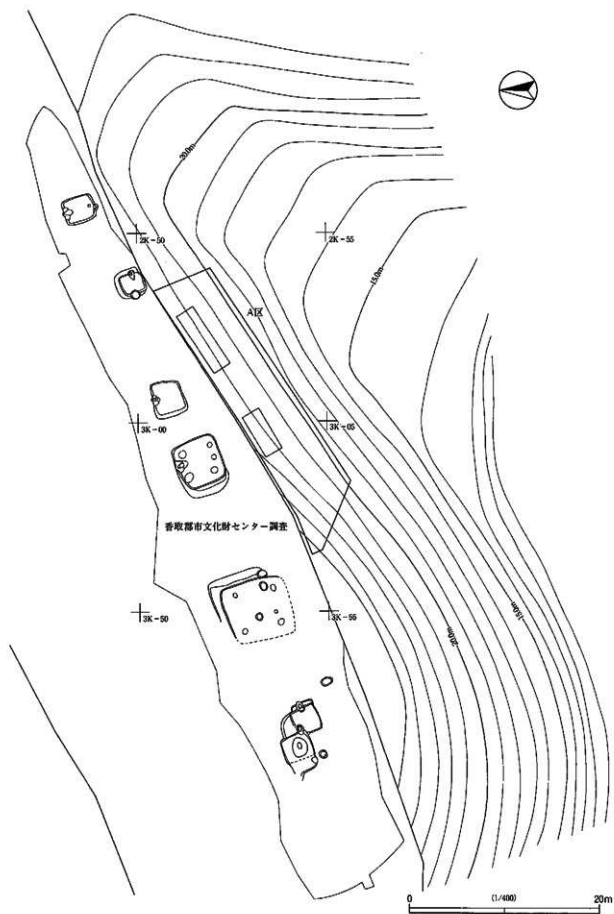
名木の場台遺跡は、旧下総町、現在の成田市名木字川子山410-1ほかに所在し、名木馬場遺跡の南側に位置している。利根川に流入する大須賀川の左岸に位置し、調査地点は名木馬場遺跡と同様に、西側の低地に張り出す小細尾根上に立地している。調査区の北区(A区)と南区(B区)が西側の小尾根状に張り出しており、調査地点はA・Bの2地点に分かれている。北側をA区、南側をB区とした。

A区(第24図)

A区は標高約36mの台地斜面部に立地している。A区の北側に接して平成16年9月9日から11月2日に(財)香取都市文化財センターによって調査された名木の場台遺跡3地点がある。3地点からは奈良時代の竪穴住居4軒、平安時代竪穴住居3軒、時期不明の土坑3基、炭焼窯4基が検出されている。出土遺物は、奈良時代～平安時代の土師器と須恵器、奈良時代の竪穴住居から手捏土器が7点出土している。今回の調査では斜面部にぞって確認トレンチを設定し調査を実施したが、調査範囲から遺構は検出されなかった。



第23図 グリッド及び調査区関係図



第24図 A区 トレンチ配置図、地形測量図

B区（第25図）

B区はA区の南に位置する細尾根に所在し、標高は同じく約36mである。北側部分は削平されている。南側は道路によって削平され、細尾根の中央部のみが残存している。調査は斜面部及び後縁に沿って確認トレンチを設定し実施した。その結果、調査区内の最も東側Aトレンチの境界付近で住居跡と思われる遺構を検出した。したがって、集落群は調査区の東側の台地中央部方向に展開すると考えられる。今回調査した地点では、竪穴住居の一部と土坑1基が検出されたが、竪穴住居は調査区外に続き、一部しか調査できなかった。土坑は全体が調査されたが、調査面積としては確認調査の範囲で終了した。

第2節 検出した遺構（第3表、図版16）

遺構はB区からのみ検出され、奈良・平安時代の竪穴住居跡1軒と同時代の土坑1基であった。

SI-001（第25図、図版10）

トレンチ内の最も上段の位置で検出された。住居跡のほとんどが調査区外に続き、詳細は不明である。検出された壁の長さ1.5mで、住居中央部への幅は0.7mである。検出面からの深さは約0.15mである。土層断面の観察では、4層が確認されており、ほぼ水平で同じ厚さの層が堆積している状態であった。このことから、検出された場所は住居跡のほぼ中央部の壁部分と推定された。遺物は3点が図示できた。

SK-001（第25図、図版10）

SI-001と同じ確認トレンチから検出された。SI-001の壁部分と重複しており、住居跡より新しい。長軸を東西にとり、長さ1.45m、短軸1m、検出面からの深さは0.1mである。堆積している土層はほぼ水平である。底は碗状になっており、水平ではない。

第3節 出土遺物（第26図、第10表）

SI-001出土遺物（1～3）（第26図、第10表、図版16）

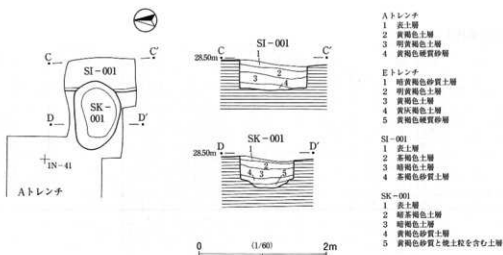
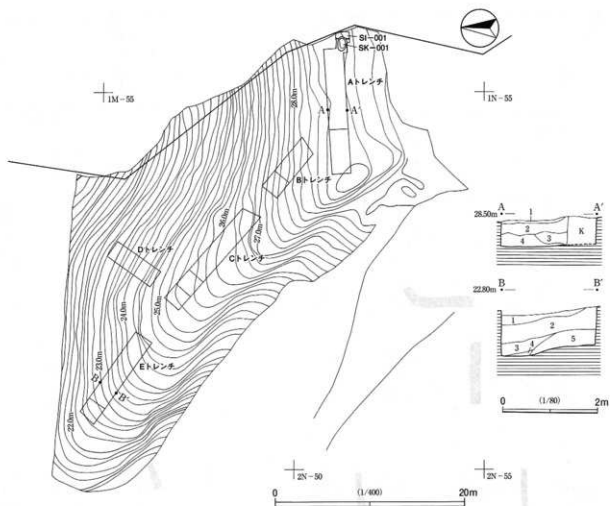
1は土師器の甕形土器の口縁部片である。SK-001出土遺物と接合した。内外面ともに暗黒褐色。胎土は緻密で、焼成も良好である。内外面ともナデを施す。2は土師器の甕形土器の口縁部片である。外面は暗赤褐色、内面は暗黒褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。外面はタテヘラケズリ、内面はナデを施す。3は土師器の高台付き杯形土器である。Cトレンチ出土遺物と接合した。内外面ともに暗褐色。胎土は緻密で、焼成も良好である。内外面ともに摩滅している。

SK-001出土遺物（4～5）（第26図、第10表、図版16）

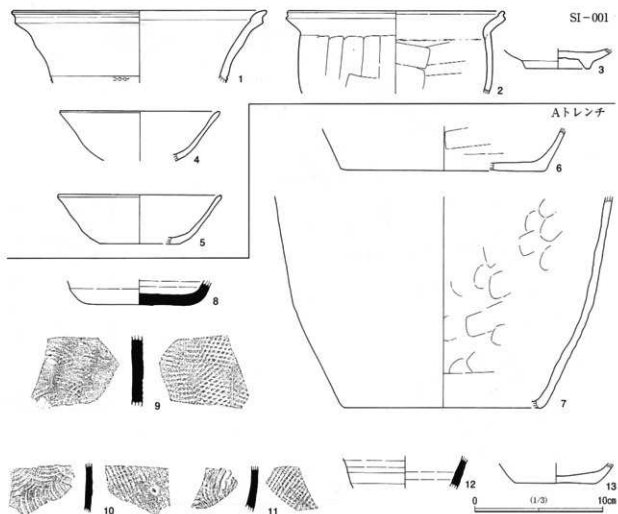
4は土師器の杯形土器である。底部を欠損する。内外面ともに暗赤褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。内外面ともに摩滅しており、調整は不明である。5は土師器の杯形土器である。4と同一個体の可能性もある。内外面ともに暗茶褐色。胎土は砂粒を含むが良好、焼成も良好である。内外面ともに摩滅しており、調整は不明である。

A・Bトレンチ出土遺物（6～13）（第26図、第10表、図版10・16）

6は土師器の甕形土器の胴部片である。内外面ともに黒褐色。胎土は砂粒を含むが、焼成は良好である。



第25図 B区 トレンチ配置図、地形測量図



第26図 SI-001、Aトレンチ遺物実測図

第10表 名木の場台遺跡土器観察表

探検 番号	番号	遺物番号	種類	器種	遺存率 %	単位: cm. □は復元線、存在線			色調		胎土	焼成	形状・調整		備 考		
						口径・ 高さ	最大径	底径・輪 径・厚さ	器高・残存 高・厚さ	外面			内面	外面		内面	
26	1	SI-001	1-2, SK-001-1	土師器	甕	口縁部片	(19.7)		(5.8)	暗黒褐色	暗黒褐色	鉄質	良好	ナゲ	ナゲ		
26	2	SI-001	1	土師器	甕	口縁部片	(16.6)		(6.5)	暗赤褐色	暗赤褐色	鉄質	良好	ナゲヘラナベリ	ナゲ		
26	3	SI-001	1, Cトレンチ-1	土師器	高台付杯	25		(3.0)	(1.6)	暗褐色	暗褐色	鉄質	良好			摩滅大	
26	4	SK-001	1	土師器	杯	底部欠	12.4		(2.9)	暗赤褐色	暗赤褐色	鉄質	良好			摩滅大	
26	5	SK-001	1	土師器	杯	25	(12.6)		(3.9)	(6.2)	暗赤褐色	暗赤褐色	砂質	良好			摩滅大
26	6	Aトレンチ	1	土師器	甕	胴部片		(16.0)	(3.5)	黒褐色	黒褐色	鉄質	良好				ヘラナゲ
26	7	Aトレンチ	1-2	土師器	甕	胴部片		(15.6)	(16.6)	黒褐色	黒褐色	砂質	良好	ヘラナゲ			摩滅大
26	8	Aトレンチ	1	須恵器	杯	底部片		8	(2.8)	暗青白色	暗青白色	鉄質	良好	ナゲ, 底部ヘラナベリ	ナゲ		摩滅大
26	9	Aトレンチ	2	須恵器	甕	胴部片		(15.6)		暗青白色	暗青白色	鉄質	良好	格子タナキ			青海波文
26	10	Aトレンチ	2	須恵器	甕	胴部片				暗黒褐色	暗青白色	鉄質	良好	格子タナキ			
26	11	Aトレンチ	2	須恵器	甕	胴部片				暗黒褐色	暗青白色	鉄質	良好	タナキ			
26	12	Aトレンチ	2	須恵器	甕	胴部片			(2.6)	暗黒褐色	黒青白色	鉄質	良好	ロクロナゲ, 底部ヘラ ナベリ	ナゲ		
26	13	Bトレンチ	2	土師器	杯	底部片		6.4	(1.6)	暗褐色	暗褐色	鉄質	良好	器底磨滅			器底磨滅

内外面ともに摩滅し表面は剥離している。外面はヘラナデ、内面には指頭痕が見られる。7は土師器の甕型土器の胴部片である。内外面とも黒褐色。胎土は砂粒を含むが良好、焼成も良好である。全面摩滅している。外面はヘラナデ、内面には指頭痕が見られる。8は須恵器の杯形土器の底部片である。内外面ともに暗青白色。胎土は砂粒を含むが良好、焼成も良好である。外面はロクロナデ、底部周囲は手持ちヘラケズリの後にロクロナデを施す。内外面ともに摩滅している。9は須恵器の甕形土器の胴部破片である。外面には格子目状のタタキ、内面には青海波文が見られる。内外面ともに暗青白色。胎土は砂粒を含むが緻密である。10は須恵器の甕形土器の胴部片である。外面には格子状のタタキに軸が掛かっている。外面は暗黒褐色、内面は黒青白色。胎土は砂粒を含むが緻密で焼成も良好である。11は須恵器の甕形土器の胴部片である。外面は暗黒褐色、内面は黒青白色。胎土は緻密で焼成は良好である。12は須恵器の甕形土器の破片である。外面は暗黒褐色、内面は黒青白色。胎土は緻密で焼成は良好である。13は土師器の杯型土器の底部片である。内外面ともに暗褐色。胎土は緻密で焼成も良好である。摩滅しており器面には剥離が見られる。

銭貨（第22図、第9表、図版18）

銭貨は1点が出土した。文久通宝である。名木の場台遺跡A区に設定したトレンチから出土した。裏面には青海波がある。周辺から遺構の検出はされなかった。

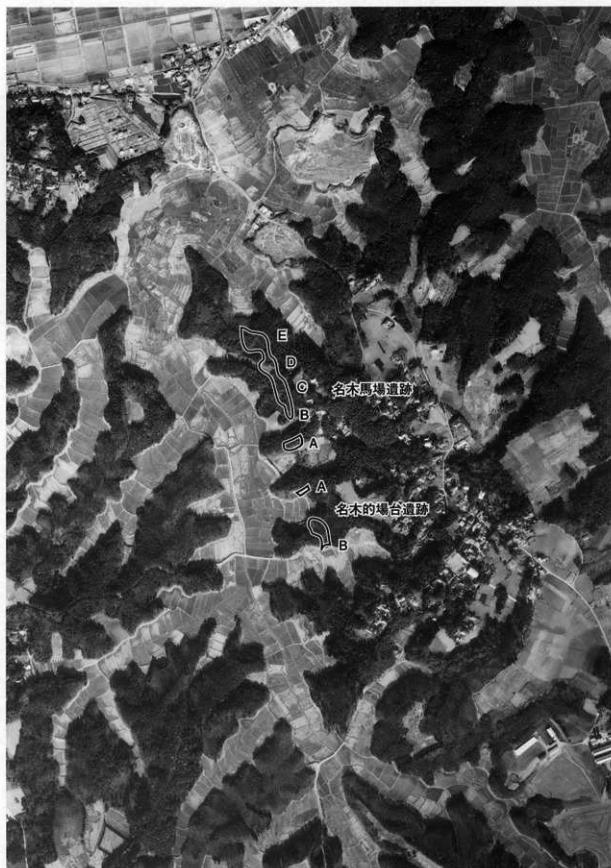
第4章 まとめ

今回報告した名木馬場遺跡及び名木の場台遺跡は、両遺跡とも調査地点が台地縁部に立地しており、遺構の検出は少なかった。

名木馬場遺跡は、A区と、B区からE区の大きく2か所に分かれている。C区・E区から遺構が検出されただけで、他の区からは検出されなかった。A区は調査区の全域が斜面部に立地しているが、中央部に設定したトレンチ内から土器片が出土した。そのため、周辺を拡張し遺構の検出につとめたが、遺構は検出されなかった。B区も調査区のおほとんどが斜面部で、遺構は検出されなかった。C区は他区に比べて平坦部があった。伐採後に確認された土塁状の遺構は同時に検出された溝の掘り上げた土であると判断された。この遺構は、台地下の耕作地へ下りる道と推定された。等高線に沿う様に検出された溝は、耕作に伴う溝の一部と推定され、近・現代の遺構と思われた。その他の遺構は検出されなかった。しかし、調査範囲内から埴輪片が出土した。D区では、前方後円墳の前方部の一部が検出されると推定されていたが(SM-001と仮称して調査)、表土直下から地山が検出され、調査区内からは古墳の盛り土や古墳の痕跡は確認されなかった。地形図では前方部が調査区内に延びるように見られたが、遺構としての古墳跡は確認されなかった。E区は中央部に若干平場が見られた。調査前は円墳様の高まり(SM-002)が確認されていたが、(SM-001)と同様に調査区内では盛り土や古墳に伴う遺構は確認されなかった。調査に先行した伐採作業で、尾根の一部が重機によって削平されていたが、その範囲に遺構は所在していないと思われる。調査開始前には確認されていなかったが、西側で塚状の盛り土(SM-003)が確認され、同時に調査を実施した。土層断面や、周溝跡等の調査から、古墳ではなく、近世の塚であると推定された。各区とも出土した遺物の多くはグリッドから出土したもので、遺構に伴って出土した遺物は少なかった。遺物の多くは縄文時代早期の三戸式の破片であった。また、弥生時代後期から古墳時代前期の土器片も出土したが、遺物が伴う遺構は検出されなかった。4Eからは土製の土玉が出土した。遺構に伴って出土したのではなく不明な点が多い。また、近世の内耳鍋の破片が出土した。内耳鍋が出土したグリッドは4Eだけで、その他のグリッドからは出土しなかった。

名木の場台遺跡は2地点に分かれていた。A区は隣接する道路建設に伴う調査を(財)香取郡市文化財センターによって実施されている。この調査では堅穴住居跡が検出されている。今回の調査地はその斜面部で、遺構等の検出は無かった。B区も細い尾根上であったが、最高位に設定したトレンチから堅穴住居と思われる落ち込みとそれと切り合った土坑が検出された。住居跡はトレンチ内だけの調査で、全体は確認されなかった。

写 真 图 版



周辺航空写真



1 調査区遠景 A区



2 調査区遠景 B・C・D区



1 調査区近景 B区調査前



2 A区トレンチ



3 B区トレンチ



4 調査区近景 C区 調査前(1)



1 調査区近景 C区 調査前 (2)



2 C区トレンチ (4E(4)トレンチ)



3 C区トレンチ (4E(2)トレンチ)



4 C区トレンチ (4E(3)トレンチ)



5 C区トレンチ (4E-C2トレンチ)



1 調査区近景 D区調査前



2 E区 SM-002調査前近景(1)



1 E区 SM-002調査前近景(2)



2 E区 SM-003調査前近景



1 E区 SM-003表土除去後近景



2 E区 SM-003周溝土層断面 (1)



3 E区 SM-003周溝土層断面 (2)



4 E区 SM-003調査後全景



1 C区 SD-004全景



2 C区 SD-004内土坑全景



3 C区 SD-005全景



4 C区 SD-006全景



5 C区 SD-006土層断面図



6 C区 SD-007全景



7 C区 SD-008全景



8 C区遺物出土状況



1 調査区近景



2 調査区遠景



1 トレンチ

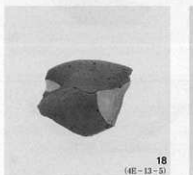
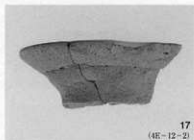
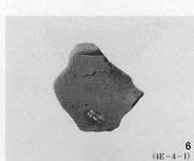
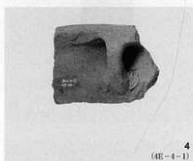
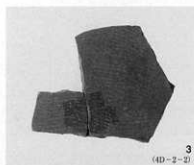
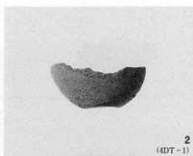
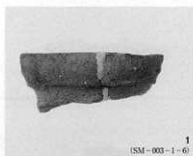


2 SK-001、SI-001 全景

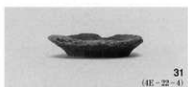
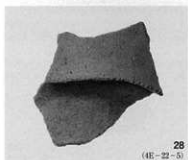
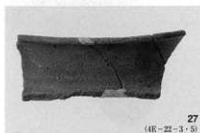
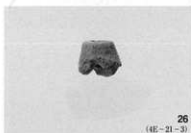
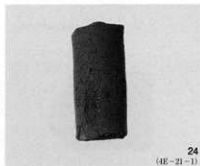


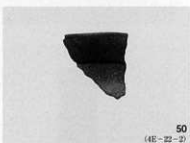
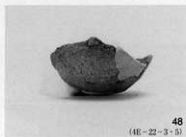
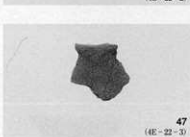
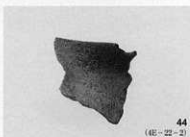
3 トレンチ内遺物出土状況

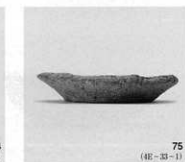
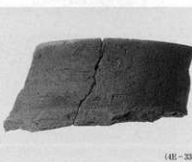
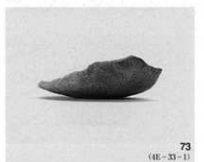
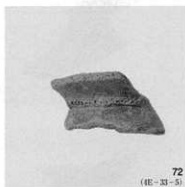
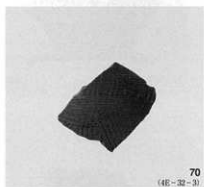
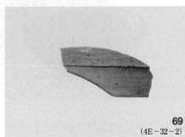
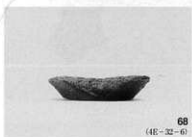
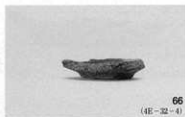
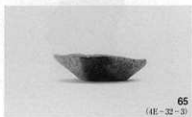
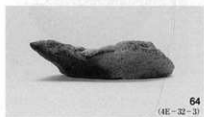
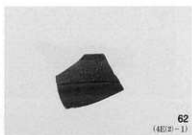
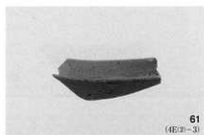


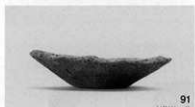
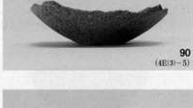
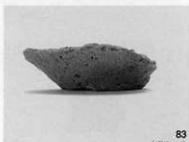


土器 SM-003、4D、4E

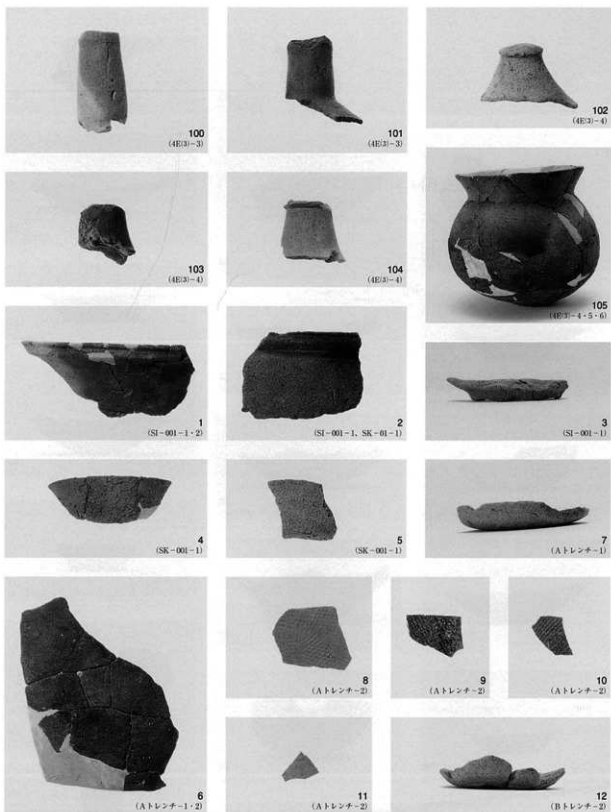




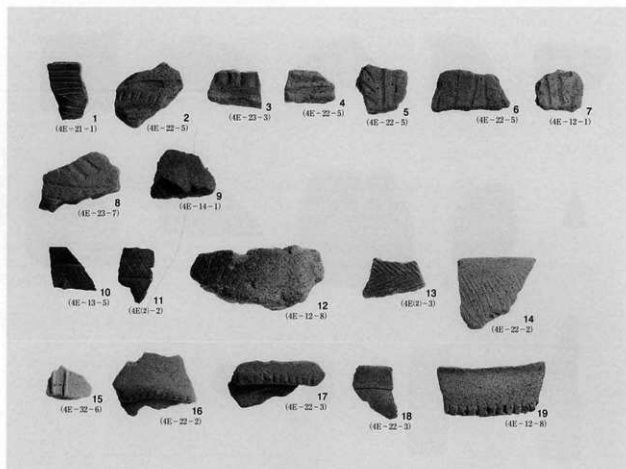




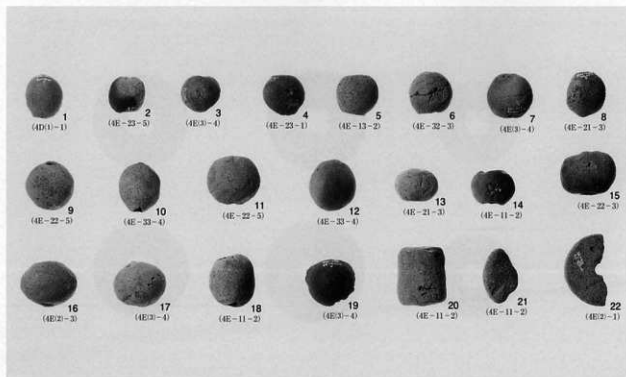
土器 4E



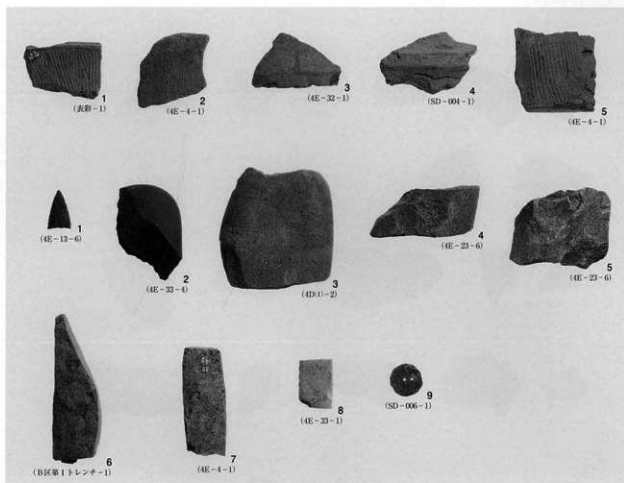
土器 4E、SI-001、SK-001、トレンチ



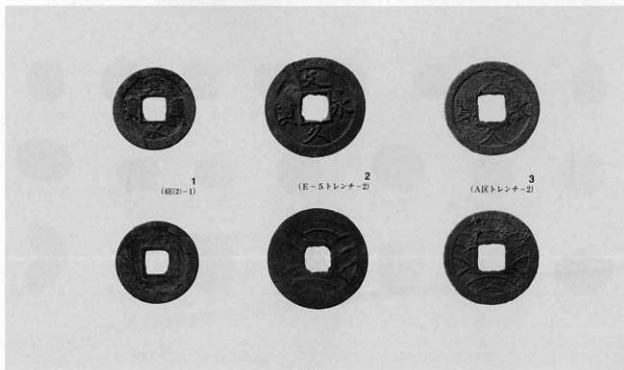
縄文土器・弥生～土師器



土製品



埴輪・石製品・石器



銭貨

報告書抄録

ふりがな	しゅうとけんちゅうおううれんらくじどうしゃどう (じょうそうこく) まいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ							
書名	首都圏中央連絡自動車道 (常総線) 埋蔵文化財調査報告書							
副書名	成田市名木馬場遺跡・名木の場合遺跡							
巻次	9							
シリーズ名	千葉県教育振興財団調査報告							
シリーズ番号	第612集							
編著者名	相京邦彦							
編集機関	財団法人 千葉県教育振興財団 文化財センター							
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809番地の2 TEL 043-422-8811							
発行年月日	西暦2009年2月27日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
名木馬場遺跡	成田市名木字熊山 1184-11ほか	341	011	35度 52分 37秒	140度 23分 16秒	20051107～ 20060306	7,700㎡	道路建設に伴う 埋蔵文化財調査
名木の場合遺跡	成田市名木字川子山 410-1ほか	341	012	35度 52分 29秒	140度 23分 19秒	20051101～ 20051104 20060306～ 20060323	1,580㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
名木馬場遺跡	墓域 集落	縄文時代 弥生時代 古墳時代 近世	塚1基、土器2条、溝5条		縄文土器、弥生土器、土師器、須臾器、埴輪、銭貨		調査区外から続く姫宮古墳の墳丘範囲と推定される部分を調査したが、調査区内からは古墳の遺構は確認されなかった。しかし、埴輪片が出土し近くに埴輪を持つ古墳の所在が推定される。近世の塚と溝跡を調査した。	
名木の場合遺跡	集落	縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代	奈良・平安時代型穴住居跡1基 土壇1基		縄文土器、土師器		奈良・平安時代の住居跡と土坑の一部を検出した。集落の最西部に位置している。	
要約	<p>名木馬場遺跡</p> <p>C・E区以外からの遺構の検出はない。C区からは近世の溝が検出された。また、埴輪片が出土し近くに埴輪を持つ古墳の所在が推定される。D区では姫宮古墳の前方部の一部が検出されると期待したが (SM-001) 遺構は確認されなかった。E区には円墳と思われる高まりが所在していたが、古墳としての痕跡は確認されなかった (SM-002)。また、近世の塚 (SM-003) が調査された。遺物はグリットから出土し、縄文時代早期の三戸式の破片と弥生時代前期から古墳時代前期の土器であった。他に土製土玉と近世の内耳飾が出土したが、遺構からの出土ではない。</p> <p>名木の場合遺跡</p> <p>2地点に分かれていた。A区は隣接地で香取郡市文化財センターによって型穴住居跡が調査されているが、今回の調査地はその南斜面部であったが、遺構等の検出は無かった。B区では、型穴住居と思われる落ち込みとそれと切り合った土坑が検出された。</p>							

千葉県教育振興財団調査報告第612集

首都圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書9

— 成田市名木馬場遺跡・名木の場台遺跡 —

平成21年2月27日発行

編 集	財団法人 千葉県教育振興財団 文化財センター
発 行	国 土 交 通 省 常 総 国 道 事 務 所 茨城県取手市1-10-14 財団法人 千葉県教育振興財団 四街道市鹿渡809番地の2
印 刷	株式会社 正文社 千葉県中央区都町1-10-6
